

○第貳拾七款 貸座敷及娼妓

第三百四拾三條 貸座敷及娼妓營業規則改正ノ事

○明治十八年六月一日滋賀縣甲第六十七號布達
明治十四年^四本縣甲第七十八號布達貸座敷並ニ娼妓營業規則別紙
ノ通改正來ル七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

(別紙)

貸座敷及娼妓營業取締規則

第一章 貸座敷

第一條 貸座敷營業ハ左ノ區域内ニ限ル免許區域外ニ於テ營業ス

ルヲ禁ス

滋賀郡大津上馬場町

同 下馬場町

同 四ノ宮町

四月原本ノ條
五月ノ條ナラ
十四年本縣甲
第七十八號布
達ハ初編第七
百九十六條(一
九丁)ニ出
十八年六月一
日滋賀縣達ヲ
以テ從前營業
者其他ニ付附
合アリ其違ハ
後ニ出

同 甚七町

同 郡神出村ノ内眞町

坂田郡長濱南片町

右上等免許地トス

蒲生郡八幡池田町ニ丁目

五區町元

神崎郡八日市村ノ内宇新地

犬上郡彦根袋町

右下等免許地トス

第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ該免許地取締及ヒ戶長ノ

奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘ

免許ヲ得ヌシテ營業スルヲ禁ス

第三條 貸座敷ハ其營業ノ實況ヨ依リ上中下ノ三等ヨ分テ毎月登

戶に付左ノ賦金ヲ納ムヘシ
但等級ヲ變更シタル月ハ總テ高等ノ賦金ヲ納メ起廢業ニ係ル
月ハ現實營業日數壹ヶ月ニ滿タスト雖モ至額ヲ納ムル勿論ク
ルヘシ

- 上等免許地 金 四 圓
- 中 等 金 三 圓 五 十 錢
- 下 等 金 三 圓
- 下等免許地
- 上 等 金 三 圓 五 十 錢
- 中 等 金 三 圓
- 下 等 金 二 圓 五 十 錢

第四條 前條等級ノ開業出願ノ際相定メ第二條同様ノ手續ヲ以テ

申出ヲ認可受クヘシ變更セヨトスルモ亦同シ自儘ニ等級ヲ變
更スルコトヲ許サズ

但本文等級已ニ認可ヲ得タルモノト雖モ不相當ト見認ルモハ
改正セシムルコトアルヘシ

第五條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ等級變更代替改氏名轉居等ノ節ハ
取締及モ戶長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヘ願出鑑

札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但廢業ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ届出テ鑑札返納スヘシ

第六條 貸座敷營業者ハ各免許地毎トニ組合ヲ立テ取締所ヲ設置
運轉業者中ヨリ正副取締各壹名ヲ撰定テ所轄警察署ヲ經由シ本

縣廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ改撰シタルモ亦同シ
第七條 正副取締タルヲ得ヘキモノハ該免許地ニ住所ヲ定メ貸座
敷ヲ營業スル滿二十年以上ノ男子ニ限ルヘシ

第八條 正副取締其任ニ適セスト見認ルルハ更ニ改撰セシメ又ハ特ニ指名シテ之ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 取締ハ貸座敷及ヒ藝娼妓舞子等ノ取締其他諸般ノ業務ヲ取扱ヒ取締事故アルルハ副取締其事務ヲ代理スヘシ

但正副取締ト雖モ自己營業上ニ於テハ一般營業者ト異ナルルナシ

第十條 取締所ニハ貸座敷及ヒ藝娼妓舞子等ノ名簿ヲ備置キ各營業者ノ本籍身分氏名年齢及ヒ免許ノ年月日等ヲ詳記シ異動アル毎トニ遺漏ナク訂正スヘシ

第十一條 貸座敷營業者ハ各組合毎ニ左ニ記列シタル事項ニ付規約ヲ設ケ取締ヨリ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ變更シタルルモ亦同シ

正副取締ノ任期給料及ヒ撰舉方法

二 取締所ニ於テ取扱フ事務條項

三 組合共同ノ經費收支ノ方法

四 藝娼妓舞子等ヲ寄寓セシムルニ付テノ契約方法

五 藝娼妓舞子等ノ花代金

六 組合營業者違約處分ノ方法

七 前各項ノ外營業上必要ノ條件

第十二條 賦金ハ毎月取締所ニ於テ取總メ明細書ヲ添ヘ其月十日迄ニ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ニ納ムヘシ

但本文納付後開業シタルモノ、賦金ハ其都度取締所ニ取立預リ置キ翌月分納付ノ際併テ納ムヘシ

第十三條 藝娼妓舞子等ヲ寄寓營業セシムルニハ篤ト其身元ヲ取糾シ重タル親戚親戚ナキ者ハ身元擔ナル保人二名以上保証セシメ該契約書ニ取締ノ與印ヲ受クヘシ變更シタルルモ亦同シ

第十四條 藝妓舞子等ハ誠實ニ取扱ヒ娼妓ハ成ルヘク速ニ正業ニ就カシムル様注意シ故ナク廢業又ハ轉居ヲ拒ム等ノ所爲一切爲スヘカラス

第十五條 貸座敷營業者ハ遊客人名簿ヲ調製シ遊客ノ住所氏名年齢遣拂金額并ニ遊興時間及ヒ招カレタル藝妓舞子等ノ氏名ヲ記載シ尙ホ同様詳細ナル冊書ヲ作り毎朝必ス取締所ヘ差出スヘシ取締所ニ於テハ之ヲ取廻メ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ差出スヘシ

第十六條 遊客中人相書ニ符合又ハ類似スルカ若クハ不相應ノ金銀物品ヲ所持シ其他不審ノ舉動アルトハ直チニ所轄警察署又ハ分署交番所等ヘ申告スヘシ

第十七條 遊興代ノ抵當トシテ客ノ衣類物品ヲ受取又ハ質入賣却等ノ周旋ヲ爲スヘカラス止ムヲ得サル場合ニ於テハ其品相添所

十八年六月九日
日誌覽縣内記
通知ナリテ
第二十二條中
爲サノ下ニ
シノ字ヲ加
フ其通知ハ後
ニ出

轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十八條 貸座敷營業者ハ店頭ニ業名ヲ記シタル看板及ヒ行燈ヲ掲シヘシ

但營業停止中ハ看板行燈ヲ掲クルコトヲ禁ス

第十九條 娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸ムルコトヲ禁ス

第二十條 遊客ノ需メサル酒食等ヲ出シ又ハ不當ノ遊興代ヲ請求スヘカラス

第二十一條 本人又ハ父兄等ノ承諾ナキ婦女ヲ勸誘シ藝妓舞子等ノ營業ヲ爲サシムヘカラス

第二十二條 客ノ招キニ應ジ娼妓ヲ免許貸座敷外ニ出シ又ハ免許鑑札所持セサル婦女ニ藝妓舞子等ノ所業ヲ爲サシムヘカラス

第二十三條 娼妓ハ常ニ身体ヲ清潔ナラシメ梅毒ノ徵候アルトハ速ニ檢査受ケシムヘシ梅毒其他傳染病ニ罹ルモノヲ

客ノ招ニ應セシムルヲ禁ス

第二十四條 營業上ニ付テハ家屬雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責任スヘシ

第二章 娼妓

第二十五條 娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ重タル親戚親戚ナキ者

証人二名以上並ニ貸座敷主等連署シ該免許地取締及ヒ戸長ノ與

印ヲ受ケタル書面ニ當人戸籍ノ寫ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出免許

鑑札ヲ受クヘシ免許ヲ得スニテ營業スルヲ禁ス

第二十六條 娼妓ハ免許貸座敷ニ居住シ年齡十四年以上ニシテ身

體檢査ヲ受ケ其營業ニ堪ルモノニアラサレハ免許セサルヘシ

第二十七條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ改氏名轉居等ノ際ハ貸座敷主

轉居ノ節ハ又ト連署シ取締及ヒ戸長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以

テ所轄警察署ヘ願出鑑札書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

十八年六月九日
日通實業内記
標通知ヲ以テ
第二十六條中
(許可)ヲ
免許)ト訂正
ス其通知ハ後
ニ出

但廢業ノ節ハ本文同様ノ手續ヲ以テ届出テ鑑札返納スヘシ

第二十八條 娼妓ハ毎月壹人ニ付上等免許地ニ二圓五十錢下等免

許地ハ二圓ヲ納ムヘシ

但此廢業ニ係ル月ハ現實營業日數ニケ月ニ滿タスト雖モ全額

ヲ納ムル勿論ナルヘシ

第二十九條 娼妓ハ客ノ招キニ應シ免許貸座敷外ニ出ツルヲ禁

ス

第三十條 廢業又ハ他ヘ轉居セントスルニ貸座敷主ニ於テ故ナク

故障シタルトキハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ訴出ヘシ

第三十一條 遊客ヨリ金錢物品等ヲ預リ又ハ貰受タルトキハ速ニ貸

座敷主ニ告知スヘシ

第三十二條 遊客中人相書ニ符合又ハ類似スルカ若クハ不相應ノ

金錢物品ヲ所持シ其他不審ノ舉動アルトキハ直ニ貸座敷主ニ密告

七シト原本ノ
マシセントノ
誤ナラン

第三十三條 檢査定日ニハ必ス檢査所へ出頭シ檢査ヲ受クヘシ若シ疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ出頭シ難キ者又ハ營業停止中ノ者ハ共事由ヲ詳記シタル書面ニ貸座敷主連署ノ上取締所ヲ經由シ檢査所へ届出ツヘシ事故畢ルカ又ハ營業解停ノ命ヲ受タルキハ臨時檢査ヲ受クルニアラサレハ客ノ招キニ應スルコトヲ禁ス

但疾病ニ罹リタルキハ主治醫ノ診斷書ヲ添フヘシ

第三章 罰則

第三十四條 此規則第一條第二條第四條第五條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十五條第二十七條第二十九條第三十一條第三十二條第三十三條ニ違背シ又ハ營業停止中私ニ營業

本年本縣甲第六十七號布達ハ前ニ決〇甲

シ若クハ營業上ニ付官署へ對シ詐偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以内ノ過料又ハ六ヶ月以内ノ苦使ニ處ス其情狀重キ者ハ過料苦使ヲ併科ス

第三十五條 若シ無力ニシテ過料ヲ納ムルコト能ハサル者ハ貳拾錢ヲ一日ニ折算シ之ヲ苦使ニ換フ其貳拾錢ニ滿サルモノト雖モ仍ホ一日ニ計算ス若シ苦使限内過料ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ苦使ヲ免ス

但親屬其他ノ者代テ過料ヲ納メタルキ亦同シ

第三十六條 第三十四條ノ處分ニ付シタル者又ハ賦金ノ納期ヲ怠リ其他不正ノ所爲アルモノハ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○明治十八年六月九日滋賀縣内記課通知

本年六月本縣甲第六十七號布達貸座敷並娼妓營業取締規則中第二十

第六十八號布
第十四條ニ出
無號違ハ後ニ
出

貸座敷娼妓等
規則ハ前ニ
出
藝妓舞子等業
規則ハ第三百
四十四條ニ出

二條ノ末文爲サノ下ニ「マ」字ヲ脱シ第二十六條ノ許可ハ免許并
甲第六十八號布違本文中取締ノ二字ハ衍且右布違ニ付テノ無號違
中第三項ノ兼業ハ專業ノ誤刷ニ付正誤ス
○明治十八年六月一日滋賀縣達
今般貸座敷及藝妓舞子營業取締規則改正布達候ニ付テハ左ノ通
右營業者ニ相達候事

一從前免許得タル貸座敷營業者ニシテ新規則實施後繼續營業セ
ントスルモノハ別段免許ヲ受クルニ及ハスト雖モ各自等級ヲ定
メ來ル六月二十日迄ニ願出認可ヲ受ケ鑑札書換ヲ請フベシ
一新規則實施後ハ藝妓舞子兼業ヲ許サ、ルコト付從前免許ヲ得タル藝
妓舞子兼業者ヨリテ新規則實施後藝妓若シハ藝妓ヲ專業セントス
ルモノハ其旨ヲ詳記シ來ル六月二十日迄ニ連署ヲ以テ届出テ專

十八年六月九
日給符額内位
通知ヲ以テ
第三項中「兼
業」ヲ「專業
」ト訂正ス其
通知ハ前ニ出

業免許鑑札ト書換ヲ請フベシ

一從前娼妓又ハ藝妓舞子等ノ專業免許ヲ得タルモノハ新規則實施
後繼續營業スルコト得ルト雖モ免許鑑札ヲ改正シ來ル七月一日
新鑑札下渡スニ付繼續營業セントスル者ハ其旨ヲ詳記シ來ル六
月二十日迄ニ連署ヲ以テ届出ツベシ
一從前ノ券場ハ新規則實施ノ日限り廢止シ更ニ取締所ヲ設ケ從前
券場ニ於テ取扱タル業務ハ總テ取締所ニ於テ取扱ヘシ
一正副取締ハ別段改撰スルニ及ハス組合規約ハ來ル七月三十一日
迄ニ相定メ認可ヲ受ケベシ
一貸座敷ノ看板及ヒ行燈並ニ取締所ノ門標等ハ左ノ離形ニ倣ヒ調
製シ來ル七月一日ヨリ相用フベシ
一賦金ハ來ル七月一日ヨリ取締所ニ於テ取纏メ之ニ納金切符ヲ添
ヘ銀行給符額ハ第六十四國立銀行衛生部ハ同八帖支店犬上神崎

預入シ其切符へ銀行ノ預リ証印ヲ受ケ之レニ明細書ヲ添へ規則第十二條ニ依リ所轄警察署ヲ經テ本縣廳へ納ムヘシ

看板雜形

曲 尺 横 七尺八寸 厚 寸 木質 適宜

□ 何等貸座敷營業

何々
氏
名
樓名又ハ家號

行燈表面雜形

製造方并ニ寸法適宜

□ 何等貸座敷營業

左右側面へハ樓名又ハ家號ヲ適宜記入スルヲ得
取締所門標雜形
寸法木質適宜

□ 貸座敷取締所

納金切符雛形

紙ハ紙美濃
紙ハツ切

明治何年何月分賦金

一金何百圓

銀行
証印

右何銀行又ハ何銀行
何々支店へ相預上納候也

年號月日

何郡何町

貸座敷取締氏名印

第三百四十四條 藝妓舞子營業規則改正ノ事

○明治十八年六月一日滋賀縣甲第六十八號布達

明治十四年十二月本縣甲第二百十四號布達藝妓舞子營業取締規則別

紙ノ通政正來ル七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事(十八年六月九日
滋賀縣内記)

其通知ヲ以テ取締ノニ字ヲ別ル
其通知ハ第三百四十三條ニ出)

藝妓舞子營業取締規則

十四年本縣甲
第二百十四號
布達ハ初編第
七百九十六條
(第四卷三百
三十一丁)ニ
出
十八年六月一
日滋賀縣達ヲ
以テ從前營業
者其他ニ付附

令アリ其達ノ
第三百四十三
條ニ出

第一條 藝妓舞子ノ營業ヲ爲サントスル者ハ該免許地貸座敷取締

及ヒ戸長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署へ願出免許鑑

札ヲ受クヘシ免許ヲ得スレテ營業スルコトヲ禁ス

但貸座敷免許地區域内ニ住居セサル者ハ營業ヲ許サス

第二條 舞子營業ハ年滿十三年未滿ノ者ニ限ル滿十三年ニ至リ尙

ホ繼續營業セントスルモノハ其月五日迄ニ前條同様ノ手續ヲ以

テ所轄警察署へ願出藝妓營業免許鑑札ト書換ヲ請フヘシ

第三條 免許鑑札ヲ毀失シ又ハ轉居改氏名等ノ節ハ第一條同様ノ

手續ヲ以テ所轄警察署へ願出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但納稅ヲ怠リ營業停止ノ處分ヲ受クルカ又ハ廢業ノ節ハ其旨

届出鑑札返納スヘシ

第四條 徵稅ニ關シ所轄郡役所へ届出ヲ要スルモノハ此規則ニ拘

ハラス其成規ニ從ヒ届出ツヘシ

第五條 貸座敷ノ紹介ヲ經ス客ノ招キニ應スルコトヲ禁ス
第六條 客ノ招キニ應シ貸座敷免許地區域外ニ出ルルハ必ス免許
鑑札ヲ携帯スヘシ

第七條 此規則第一條第二條第三條第五條第六條ニ違背シタルモ
ノハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一
圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 前條ノ處分ニ付シタル者又ハ不正ノ所爲アルモノハ行政
ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止スルコトアルヘシ
第三百四十五條 賦金徵收事務主管并ニ遊妓舞子税金不納營業停
止ノ節報告ノ事

○明治十八年六月二日滋賀縣丙第四十一號達大野洲、甲賀、伊香西、浪井、高島、チ、除、ク、郡、役
今般貸座敷及ヒ遊娼妓舞子營業取締規則改正布達候ニ付テハ左ノ

通相心得ヘシ此旨相達候事

○
一 賦金徵收ニ係ル事務ハ來ル六月三十日迄ノ分ハ従前ノ通郡役所
ニテ主管シ七月一日以後ノ分ハ警察署ニテ主管スルモノトス
一 來ル七月一日以後遊娼妓舞子ニシテ税金ヲ不納シ營業停止ノ處分
ニ付シタル時ハ直ニ其旨所轄警察署ヘ報告スヘシ

○第貳拾八款 密賣淫

第三百四拾六條 賣淫懲罰例ヲ賣淫犯處分規則ト改メ全部更正ノ

事

○明治十八年六月六日滋賀縣中第七拾號布達

明治十二年四月本縣中第貳拾七號布達賣淫懲罰例別紙之通改正候條

此旨布達候事

(別紙)

賣淫犯處分規則

第一條 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者ハ六月以内

ノ懲戒ニ處シ又ハ三十圓以内ノ過料ニ處ス其情狀重キ者ハ懲戒

過料ヲ併科スルコトアルヘシ

第二條 賣淫犯ハ所轄警察署ニ於テ處分ス

第三條 懲戒ノ期限ハ言渡ノ日ヨリ起算シ放免ノ日ハ期限ニ算入

十二年本縣中
第廿七號布
達ハ初編第八
百九十八條(一)
第四卷五百五
十丁ニ出

懲戒原本ノマ
マ懲戒ノ誤ナ
ラン

セス

第四條 過料ハ言渡ノ日ヨリ十日以内ニ納完スヘシ若シ限内納完セ

サル者ハ二十錢ヲ一日ニ折算シ之ヲ徵戒ニ換フ其二十錢ニ滿サ

ルモノト雖モ仍ホ一日ニ計算スヘシ若シ懲戒限内過料ヲ納メタ

ル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲戒ヲ免ス但親屬其他ノ者

代テ過料ヲ納メタル時亦同シ

第五條 懲戒限内他ノ犯罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ先ツ主

刑ヲ執行シ然ル後懲戒ヲ執行ス

○第二十九款 遊技場開

○第三十款 諸興行開

○第三十一款 俳優開

○第三十二款 博覽會

第三百四十七條 博覽會共進會品評會等開設ノ節申報方ノ事

(參) 明治十八年十二月十四日滋賀縣甲第七十二號布達

自今人民ニ於テ博覽會共進會品評會等其他之ニ類似ノ會ヲ開設セ
ントスルトキハ開會二十日前其規則書相添届出進テ出品目錄審查
廣告狀寫テ差出シ尙閉場後該會ノ景況左ノ書式ニ照シ申報スヘシ
此旨布達候事(左ノ書式ハ別紙)

第三百四十八條 郡設物産共進會及品評會補助金給與内規

(參) 明治十八年八月二十一日滋賀縣丙第九十三號達所^後

十九年五月二
十四日滋賀縣
甲第七十六號
布達テ以テ全
部廢止更正ス
ト雖モ參考ノ
メ編入ス其
布達ハ第五編
ニ載ス
永式ニ非ザル
カ如シト雖モ
參考ノメ編
入ス

十九年三月二
日滋賀縣乙第
二十九號ヲ以
テ十九年度ニ
モ適用スル旨
ヲ達ス

ニ於テ開設候者ハ内規第四項ニ據リ來十二月二十五日限可申出此
旨相達候事

(別紙)

郡設物産共進會及品評會補助金給與内規

第一 補助金ヲ給與スル共進會及品評會ハ一郡若クハ二郡以上聯
合シテ開設スルモノニ限ルヘシ

第二 補助金ハ一郡ニ於テ開設スルモノト二郡以上聯合ノモノト
ヲ問ハス一郡ニ付金三十圓トシ其品種ト出品人員ノ多寡ニ依リ
増減スルモノトス

第三 補助金請求書ニハ開設地名開閉期日及品種出品人員並ニ費
用支出法等ヲ詳記シ開設以前ニ差出スヘシ

第四 補助金ハ請求スルモ豫定ノ數ニ超過スル時ハ其請求ノ前後
ト其開設スヘキ物産ノ緩急ニ就キ許否スヘシ

第三百四拾九條 商標登錄ノ出願勸誘ノ事

○明治十八年二月六日滋賀縣諭達

商業ト工業ト其間ハ物貨販賣上信用ノ貴重ナルハ固ヨリ論ヲ俟
クテ而シテ他ノ模擬ヲ防キ以テ自家ノ信用ヲ全セント欲セハ必ス
自家専用ノ商標ナカルヘカラス是レ曩ニ商標條例ノ發布アル所以
ナリ然ルニ該條例實施以來已ニ數閱月ナリト雖モ縣下商工業者
リ商標登錄願出候者僅々數名ニ過キス商工業者ノ多キ縣下ニシテ
如此僅少ナルハ想ニ商標ノ欠クヘカフサルヲ知ラサルニアラスト
雖モ從來營業上ニ慣用セル目印ナルモノハ登錄ノ効ナキヲ以テ登
録ヲ願出テントセハ新ニ商標ヲ製セサルヘカラサルニ依ルナルヘ
シ然ルニ本年一月太政官第四號ヲ以テ該條例頒布以前使用スル商
標ニシテ現ニ其同業者間ニ専用ノ効アルモノハ商業上慣用セル目

商標條例ハ十
七年六月七日
太政官第十九
號布告ニシテ
滋賀縣ノ布令
ニ非ス故ニ登
載セズ

本年太政官第
四號布告及ヒ
本年農商務省
第一號告示ハ

滋賀縣ノ布令
ニ非ス故ニ登
載セズ

印ト雖モ其登錄ヲ願出ルヲ得ヘキ旨布告相成候ニ付テハ右ニ適
應スル目印ヲ以テ商標トナシ専用セント欲スル者ハ該條例附則及
ヒ本年一月農商務省第一號告示ニ據リ來ル三月三十一日限り登錄
可願出若シ此期限ヲ過ソル時ハ自ラ専用ノ權ヲ拋棄シ他ノ専用ニ
屬シ候等ノ事出來可致候條爲心得此旨輸達候事

第三百五拾條

登錄商標見本衆庶ノ觀覽ニ供スルノ事

○明治十八年三月二十四日滋賀縣丙第二十二號諭達
明治十七年第十九號布告商標條例施行相成候ニ付テハ右登錄商標
見本本年五月ヨリ下付可致候ニ付衆庶ノ觀覽ニ供シ候條可致此旨
相達候事

○明治十八年九月十一日滋賀縣告第九拾七號告示

登錄商標見本ノ儀本廳及ヒ縣下各郡役所ニ備置衆庶ノ觀覽ニ供シ
候條此旨告示候事

十七年第十九
號ハ太政官ノ
布告ニシテ滋
賀縣ノ布令ニ
非ス故ニ登載
セズ

○第拾五章

財產契約ハ各其財產種類ノ章ニ依ル

○第壹款

共有財產

○第貳款

遺留財產

○第三款

遺失物（漂流物ニ關スル諸事ハ第八章第拾貳款ニ載ス）

第三百五拾壹條

諸物品等流失ノ節届出方ノ事

○明治十八年七月三十日滋賀縣甲第百拾貳號布達

船舶及ヒ諸物品等流失候節ハ自今所管郡役所へ可届出此旨布達候

事（十八年八月十九日滋賀縣乙第百拾壹號布達ヲ以テ地方稅經濟ニ係ル橋梁河川ノ水除類流失ノ節届出方ニ付附令アリ其通ハ後ニ出）

但明治十八年四月本縣第三百七十四號布達但書ハ廢止候事

○明治十八年八月十九日滋賀縣乙第四十一號達（郡役所）

本年七月本縣甲第百十二號ヲ以テ流失物届方ノ儀及布達候處工費地

方稅經濟ニ係ル橋梁及ヒ河川ノ水除類流失スルトキハ三日以内ニ

其木種員數等ヲ詳記シ該町村長ヨリ郡役所へ可届出郡役所ニ於

八年本縣第
百七十四號布
達ハ初編第
百五十條（第
二卷六百五
十七）ニ出
本年本縣甲第
百十二號布達
ハ前ニ出

テハ右届出ヨリ三日以内ニ部内取總ノ本廳へ報告スヘク面シテ右
地方稅經濟ニ係ル流失材木取揚ケタル旨戶長役場へ報告スル者ア
ルハ現品預リ置別紙離形ノ如キ調査ヲ製シ郡役所へ可差出郡役
所ニ於テハ該調査ノ當否ヲ審査シ意見書ヲ副へ速ニ本廳へ可差出
此旨相達候事

（別紙）

取揚流失材調査

何街道何郡何町村

何橋木材

何川筋

川除木材

杉或ハ何丸太

此相當代價何程

長
何
町
長
何
町

何
本

但
金
本

財產契約

同	何木	長何間何尺	何本
此相當代價何程			但同
同	何木	長何間何尺	何本
此相當代價何程			但同
同	何板	長何間何尺	何枚
此相當代價何程			但同
合相當代價何程			

取揚人 何那何町村 某 某

右ハ何月何日何川出水之節取揚ノ候漂流木調査係ニ地方稅經濟ニ係ルモノト視認候分書面之通ニ有之候條此段上申候也

年月日 何町村外何町村浦役人心得

滋賀縣令苗字名殿 戶長 何 某

○第四款 金穀貸下賜

○第五款 公債及公債證書圖

○第六款 官地官舎等下與賣買及貸渡

第三百五拾貳條 札幌縣ニ於テ既ニ地所拂下ヲ受ケタル者代金上

納及ヒ地券請求期限等ノ事

○明治十八年八月二十八日滋賀縣告第九十四號告示

札幌縣ニ於テ是マテ地所拂下出願及ヒ許可シタル者ニシテ代金即納地券請求方郡區役所戶長役場ヨリ達テ受ケタルマ、未タ代金上ルニ由ナキ者ハ本年八月一日ヨリ九十日以内ニ代金上納地券請求方可申出若シ右日限ヲ過シルモノハ一切無効タルヘキ旨同縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

第三百五拾三條 官有借地人心得書更正ノ事

十四年本縣甲
第百二號布
達ハ初編第八
百三十條(第
四卷四百八丁
ニ出

○明治十八年八月二十五日滋賀縣甲第百二十五號布達

明治十四年ハ本縣甲第百二號布達官有借地願及ヒ返還手續別紙ノ通更正候條此旨布達候事

但道路敷及ヒ官林ニ査定ノ土地ハ本則ノ限ニアラス

(別紙)

官有借地人心得書

第一條

一官有地ヲ町村ニ於テ公借セント欲スル者ハ町村會ノ議決ヲ經テ長ノ名印ヲ以テ一已或ハ數人共同私借ヲ請フニハ身元儲カナルモノ二名以上ヲ保証人ニ相立テ使用ノ目的ヲ具シ五ヶ年以内(社會域内ハ)ノ期限ヲ定メ別紙一號書式ニ準シテ願書ニ實地明瞭ノ圖面ヲ添ヘ提出スヘシ

第二條

財產契約

一 實地差支ナシシテ借地ヲ許可シタル上ハ其指令到達ノ日ヨリ五日以内ニ別紙ニ號書式ニ準シ借地証書ヲ差出スヘシ

第三條

一 官有地借用ノ許可ヲ請ケタルモノハ其當初出願ノ目的ニ隨テ之ヲ使用スルコトヲ得ルト雖モ他人ヘ書入又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ル者トス且轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ但死亡代換等アルトキハ借地名受變換ノ認可ヲ受ケ借地証書ヲ書換フヘキモノトス

第四條

一 貸下期限内ケリテ事故アルモ其地ヲ返還セシムルコトアルヘシ若シ其場合ニ於テハ達ノ日ヨリ滿六ヶ月内ニ返還スヘキモノトス

但返還期限別段申渡スルハ本文ノ限ニアラス

第五條

一 借地返還スルモ其地上ノ私有物ハ取拂ヒ原形ニ復スヘシ

第六條

一 期限滿期ニ至リ其地ヲ繼續借受ケント欲スル者年ヲ以テ貸渡シタルモノハ期限三ヶ月前ニ月ヲ以テ貸渡シタルモノハ其期中ニ第一條ノ手續ヲ以テ願出ヘシ若シ期限經過シ其手續ヲナサス他人ヨリ其地ヲ借受ケンコトヲ願フモノアルモ其借地繼續ヲ得ルノ權ヲ失フモノトス

第七條

一 借地期限ハ左ノ區別ニ從フモノトス
一 年ヲ以テ貸渡ス者ハ貸渡シタル月ノ過速ニ拘ハタズ其初年ヲ一年ニ算シ末年十二月三十一日ニ至ルマテ其期限トス

二月ヲ以テ貸渡ス者ハ貸渡シタル日ノ遅速ニ拘ハラズ其初月ヲ一月ニ算シ限月ノ末ニ至ルマテナリ期限トス

第八條

一 借地料ハ近傍類地ニ比準シテ本地ノ地價ヲ仮定シ其百分ノ八トス

但繼續借地ヲ許可スルトハ實地ヲ審査シ借地料ヲ増減スルコトアルヘシ

第九條

一 借地料ハ貸渡及ヒ返還指令ノ日ヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ徴収スルモノトス

一 年ヲ以テ貸渡スモノハ其貸渡返還ノ年十二月ニ滿タリルモノハ月割ヲ以テ納メシムヘシ尤貸渡及ヒ返還指令ノ月ハ日數ニ拘ハラズ一ケ月ニ算スルモノトス

十八年十月十五日
五日
第五百四十三號
布達ヲ以テ第九條中更正其布達ハ後ニ出

第十條

一 借地料ヲ期限ノ通上納セサルモノハ其貸下ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ其不納ニ係ル料金ハ保証人ヨリ辨償セシメ且其地ニ如何ナル勞費アルモ其償ヲ下付スルコトナカルヘシ

第十一條

一 立樹アル官有地ヲ借受ルモノハ樹木ニ障礙無之ヲ保存スヘシハ勿論若シ無據枝打ヲ要スルトハ其事由ヲ具シ許可ヲ請フニアラザレハ採伐スルヲ得ス

壹號

官有地借用願書式

財產契約

十九年六月二
十八日
第五百號布達
ナリテ第十條
ヲ第十一條ト
シ第十一條ヲ
第十二條トシ
更ニ第十條ヲ
追加ス其布達
ハ第五編ニ載
ス

十八年九月十五日
五日發賣縣内
記録通知ヲ以
(古近傍)チ
(右近傍)ト
訂正ス其通知
ハ後ニ出

何國何郡何村字何 第何番

一何^{茶地}地 何町何反何畝何步 或ハ何坪

此借地料一ケ月又ハ金何圓何錢

但一反步或ハ百坪ニ付金何程

何ケ月期

右近傍類地

何郡何村 第何番字何々

一何地何反何畝何步

此地價何程

但一反步ニ付何程

固有樹木

松樹何本

日通何尺何寸
長サ何間何尺

杉全何本

〃

檜全何本

〃

十八年九月十日
五日發賣縣内
記録通知ヲ以
(年々)又
(八月)又
(年々)又八月
々ト訂正ス
其通知ハ後ニ
出

何全何本

合木數何百何拾何本

借地内樹木アレハ點例ニ據リ明記シ且樹木ノ長サ

ハ一ノ枝マテヲ以テ其長サヲ記入スルモノトス

右地所何々用使^{明記ス}目的^ノ爲メ借用仕度候間御開届被下度尤御

開届ノ上ハ前書ノ料金^{〇〇}又ハ^{〇〇}上納可致候續圖添付此段相願候也

何國何郡何村

族籍職業

年月日

借主 何 某印

保証人 何 某印

保証人 何 某印

町村ノ公借ニ係ルモノハ町村會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記
入シ戸長ノ名印ヲ以テ差出スヘシ官有社寺境内地チ一

保証人 何 某印

町村ノ公借ニ係ル証書ハ未文ニ甲第百貳拾五號借地心得書ノ條々使用人ニ遵守可爲致旨ノ明文ヲ加ヘ戶長ヨリ差出スヘシ

滋賀縣令苗字名殿

前書ノ通相違無之ニ付與印仕候也

地元何村

戶長 何 某印

○明治十八年十月十五日滋賀縣甲第百四十三號布達

本年八月當縣甲第百二十五號布達官有借地人心得書第九條中左ノ通更正候條此旨布達候事

○一年ヲ以貸渡スモノハ其貸渡返還ノ年十二月ヨリ滿タサルモノハ

本年當縣甲第百二十五號布達ハ前ニ出

本年當縣甲第百二十五號布達ハ前ニ出

月割ヲ以納メシムヘシ尤貸渡指令ノ月ハ日數ニ拘ハラヌ一ケ月ニ算入シ返還ハ其月ヨリ免除ス

二月ヲ以貸渡スモノハ其貸渡指令ノ日十五日以前コアルトハ全月分又十五日以後コアルトハ半月分ヲ徵收シ其返還ハ十五日以前ナレハ其月ヨリ又十五日以後ナレハ半月分ヲ免除ス

○明治十八年九月十五日滋賀縣内記課通知

本年本縣甲第百二十五號布達官有地借用願書式朱書ノ内古近傍類地ハ右近傍類地全墨書中前書ノ料金トアル下ノ割註「年々又ハハハハ」月々又ハハノ誤

第三百五拾四條 根室縣下官有貸下地借用願手續ノ事

○明治十八年四月三十日滋賀縣告第五十九號告示

根室縣下官有貸下地ノ儀別冊ノ通布達候旨同縣ヨリ照會有之候條心得ノ爲メ此旨告示候事

(別冊)

甲第十二號

從來官有貸下地ノ義本年ヨリ更ニ五ケ年ヲ一期トシ可貸渡候條來ル十一月三十一日迄ニ別紙書式ニ照準最前ノ指令及貸地之証相添更ニ可願出若シ右日限迄ニ不願出モノハ何等ノ明文アル指令又ハ貸地証ヲ所持スルモ一切無効ノモノトス

但續年季ヲ願フモノハ滿季ノ年一月〔假令ハ明治十年ヨリ五ケ年ヲ季ナレハ明治十四年一月ヲ云〕ニ願出ヘシ

右布達候事

明治十八年四月一日

根室縣令湯地 定基

(備考) 一 別紙英訳白紙 一 貸地之証未タ申請ナルモノハ(貸地之証)ノ四字ヲ除ク

借地願

何國何郡何村何丁目何番地何々

一 何々地 反別(地坪) 一ヶ所

右明治何年月日借地御許可ノ處今般甲第十二號御布達ニ付更ニ本年ヨリ五ケ年間成規ノ貸地料ヲ以テ御貸渡被成下度就テハ借地中願人不在若クハ事故アルトハ總テ保証人引受ク可仕候因テ別紙指令並ニ貸地ノ証相添保証人連印ヲ以テ此段奉願候也

何縣華士族平民

何國何郡何村何丁目何番地在籍〔付籍又ハ戶主ニアラサスルモノハ其理由ヲ詳記スヘシ〕

當時何國何郡何村何丁目番地(離方)寄留

年月日 願人 何之誰 印

根室縣華士族平民

何國何郡何村何丁目番地在籍

保証人 何之誰 印

肩書全上

財產契結

保証人

何之 謹印

縣令 宛

與書

年月日

戸長 [長ナキ] 地ハ郡長

借地繼年季願

(地名地目反別其他借地願書式ニ全シ)

右明治何年月日何第何號ヲ以テ許可御指令ノ處本年滿期ニ付來ル
明治何年ヨリ向ウ五ケ年間更ニ借地御許可被成下度就テハ借地中
願人不在若シハ事故アルハ總テ保証人引受可仕候因テ別紙貸地
証返納此段奉願候也

第三百五十五條 堤塘使用人心得書更定ノ事

十五年當縣甲
第八十八號布
達ハ初編第八
百三十三條
第四卷四百二
十二丁ニ依

○明治十八年九月十六日滋賀縣甲第三百三拾三號布達
明治十五年^四當縣甲第八拾八號布達堤塘使用規則別冊ノ通更正候
候此旨布達候事

(別冊)

堤塘使用人心得書

第一條

一 凡堤塘ヲ使用セントスル者ハ地盤ハ官民有ニ均ハラヌ本則ニ遊
フヘキモノトス

第二條

一 堤塘使用ハ從來使用ノ慣行アルモノニシテ實地差支ナキト認認
ムル箇所ニ限リ料金ヲ徵シ使用ヲ許スモノトス

第三條

一 水防器具ノ設置出水ノ號鐘設備等堤塘保護ノ爲メニ使用セント

財產契約

スルモノハ使用料ヲ徴セス又新クニ使用ヲ許可スルコトモアルヘシ

第四條

一 堤塘ナ一町村ニ於テ共同使用セント欲スルモハ町村會ノ議決ヲ經戶長ノ名印ヲ以テシ一己或ハ數人使用ニ係ルモハ身元儲ナルモノ二名以上ノ保証人相立テ何レモ其使用ノ目的ヲ具シ五ケ年以内ノ期限ヲ定メ別紙一紙書式ニ準シタル願書へ實地明瞭ノ圖面ヲ添へ差出スヘシ

第五條

一 使用ヲ許可シタル上ハ其指令到達ノ日ヨリ五日以内ニ別紙二號書式ニ準シ受書ヲ差出スヘシ

第六條

一 使用許可ヲ受ケタルモノハ當初出願ノ目的ニ隨テ之レヲ使用ス

ルコトヲ得ルト雖モ地盤ヲ變換スルヲ得ス且轉貸ハ官ノ許可ヲ得ルコト於テハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ

但死亡代換其他ノ事故ニテ使用主ノ變換ヲ要スルモハ其事由ヲ具シ出願許可ヲ受ケ受書ヲ書換ヘキモノトス

第七條

一 使用許可シタル箇所ト雖モ新ニ樹竹ヲ植付セント欲スルモハ隨時許可ヲ請フヘシ尤實地障害アリト視認ルモハ許可セサルコトアルヘシ

第八條

一 使用期限内ナリハ水理ニ關シ堤塘保護ニ要用ナリト視認ルモハ直ニ其地ノ全部又ハ幾部分ノ使用ヲ停止シ或ハ建物取拂樹竹伐採等ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ使用人ニ於テ一切拒ムヲ得ス

第九條

一 期限満期ニ至リ返地又ハ事故アリテ使用ヲ停止シタルトハ其地上ノ私有物〔建物附竹等ノ類〕ヲ取拂素形ニ復スルハ勿論ナリ因テ返還後ト雖モ三ヶ月間ハ實地不都合ノ廉アレハ修治セシムルコアルハシ

第十條

一 使用中ニ植挿培養シタル樹竹等出水ノ際防禦ノ爲メ要用ノ場合ニ在テハ直ニ伐採水防ニ使用スルコトアルモ堤塘使用人即チ樹竹ノ所有者ニ於テ之レヲ拒ムヲ得ス

第十一條

一 使用ノ許可ヲ受ケタル箇所ニ所有ニ非サル樹竹アレハ其樹竹ニ障碍ナキ様注意スヘキハ勿論若シ枝打等ヲ要スルコトアラハ其事由ヲ具シ許可ヲ受ルコトアラザレハ伐採スルヲ得ス

第十二條

一 使用期限中出水等ノ爲メ其地ノ全部又ハ幾部分破壊セシ箇所ハ修築ノ後ト雖モ其地ノ使用ヲ許サス由テ此場合ニ於テハ速ニ其事由ヲ具シ破壊ノ間敷ヲ記入シタル圖面ヲ添へ返地ノ義届出ヘシ

第十三條

一 期限満期ニ至リ繼續使用セント欲スル者ハ期限三ヶ月前ニ第二條ノ手續ニ憑據シ繼續使用ノ明文ヲ掲ケ願出ヘシ

第十四條

一 使用期限ハ使用ヲ許可シタル月ノ遅速ニ拘ハラズ其初年チ一年ニ算シ末年十二月三十一日ニ至ルマテナ期限トス

第十五條

一 使用料ハ近傍類地ニ比準シテ本地ノ地價ヲ仮定シ其百分ノ八ト

十八年十月三十一日
甲第五十條
布達ヲ以テ
十六條ハ但
テ追加ス其
違ハ後ニ出

ス

但繼續使用ヲ許可スルハ實地審査シ使用料ヲ増減スルコトアルヘシ

第十六條

一 使用料ハ其使用許可并返還ノ年十二月ニ滿テサルモノハ月割ヲ以テ納メシムヘシ

第十七條

一 使用料ハ一年兩期ニ區分シ一月ヨリ六月マテノ分ハ六月三十日限リ七月ヨリ十二月マテノ分ハ十二月二十日限リ納ムルモノトス若シ期限通上納セサルモノハ其使用權ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ其不納ニ係ル料金ハ保証人ヨリ辨償セシメ且其私有物ヲ取拂ヒ素形ニ復サシムヘシ

第五號

堤塘使用願書式

何川通又ハ字何々用惡水路

何郡何町第何番字何々

一 官有堤塘反別何町何反何畝歩

此使用料一ケ年金何圓何拾何錢

但壹反歩ニ付金何程

何ヶ年期

右近傍類地

何郡何町第何番字何々

一 何地反別何反何畝何歩

此地價何程

但壹反歩ニ付金何程

官有樹木

何樹 何本

且通何尺何寸
長サ何間何尺

何樹 何本

合何十何本

使用區域内官有樹竹アレハ此例ニ依リ明記シ且樹木ノ長サハ一ノ枝マテテ量リ竹ハ目通り寸尺ノニ記スヘキモノトス

右地所何々〔使用ノ目的ヲ〕ノ爲メ使用致度候間御開届相成度繪圖添付此段相願候也

何 郡 何 村町

族籍職業

年 月 日

使用主 何 某印

保証人 何 某印

全 何 某印

町村共同ノ使用ニ係ルモノハ町村會ノ議決ヲ經テ

ル旨ヲ記入シ戸長ノ名印ヲ以テ差出スヘシ

滋賀縣令苗字名殿

前書ノ通相違無之ニ付契印仕候也

何 村外何々 村町

戸長 何

某印

第二號

堤塘使用請書式

何川通又ハ字何々用惡水路

何那何村第何番字何々

一官有堤塘反別何町何反何畝步

此使用料一々年金何圓何拾何錢

但壹反步ニ付金何程

何々年期

財產契結

官有樹木ノ地所、第一號書式、然、此處ニ記入スヘシ

右地所當明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期何ケ〔使用ノ事由ヲ〕ノ爲メ使用願ノ通御許可相成候ニ付テハ明治十八年甲第百三十三號布達使用心得書ノ條々遵守可致候依之請書差上候也

何 郡 何 村

族籍職業

年 月 日

使用主 何 某印

保証人 何 某印

全 何 某印

町村共同ノ使用ニ係ル証書ハ末文ニ甲第百三十三號使用人心得書ノ條々使用人ニ遵守可爲致旨ノ明文共加ヘ戶長ヨリ差出スヘシ

滋賀縣令苗字名殿

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

何村外何ケ村

戶長 何 某印

○明治十八年十月三十一日滋賀縣甲第百五十號布達

本年九當縣甲第百三十三號布達堤塘使用人心得書第十六條ヘ左ノ通但書ヲ追加候條此旨布達候事

○

但使用許可ノ月ハ日數ニ拘ハラヌ一ケ月ニ算シ返還ハ其月ヨリ免除ス

第三百五十六條 堤塘使用許可辦ノ分設置腹付等施工ノ爲メ使用

停止スヘキ場所モ之ノ事

○明治十八年四月二十一日滋賀縣乙第十七號達

郡役所 戶長 役場

本年當縣甲第百三十三號布達ハ前ニ出

(本文ハ第百八)

第三百五十七條

修繕費村費以下ノ負擔ニ係ル堤塘ノ使用料下渡手續ノ事

明治十八年一月二十七日滋賀縣丙第九號達所^{郡役}

(本文ハ第百)

明治十八年二月二十五日滋賀縣丙第十七號達所^{郡役}

(本文ハ第百)

明治十八年四月二日滋賀縣丙第二十五號達所^{郡役}

(本文ハ第百)

○第七款

賣買讓與及附託貸借并公證^{本編更ニ此款目ヲ改定ス}

第三百五十八條

驛遞局貯金預ケ方及ヒ拂戻方心得

○明治十八年五月二十六日滋賀縣丙第三十八號達所^{長役}

驛遞局貯金ノ儀ニ付テハ是迄段々及告諭置候次第モ有之候處今般

告第六十七號ヲ以テ及告示候通リ本年六月十日ヨリ十一箇所貯金

預所増設和成尙^ハ追々増設可相成答ニ付テハ此際一層部内人民^ハ

シテ其餘裕ヲ蓄積爲致候様懇篤獎勵可致依テ爲心得別紙貯金預ケ

方及拂戻方心得并ニ貯金利子ノ割合表各壹葉^ヲ、下渡候條永^ク其

役場ノ門前ニ揭示致置キ衆庶ノ熟覽ニ供ス^{ベシ}此旨相達候事

(別紙)

貯金預け方及以拂戻方心得

一 驛遞局貯金は何人にも一人に付一度に十錢以上又一日に五

財産契約

告第六十七號
告示ハ貯金預
所増設ノ件ニ
シテ條規例則
ニ非ス故ニ管
載セス

十八年六月十
六日滋賀縣丙
九號通知ヲ以
テ預ケノ下ニ
(方)ノ字ヲ加
フ其通知ハ後
ニ出

- 十 圓迄を預るへし
但端数は厘位迄に限るへし
- 二 貯金には利子を附す但預りたる月と拂戻す月并に十銭に滿たざる端數には之を附せず
- 三 利子の割合は常時貯金預所に揭示すへし
- 四 貯金の利子は毎年六月十二月の兩度に區切り計算して元金に組込むべし
- 五 始めて預け金をなすものは貯金預所に至り預け願書用紙を申受け之れに年月日貫籍住所職業氏名を書入れ印を押し貯金預所に差出すべし
但印判を所持せざるものは引受人を立て其引受人本文の願書に住所氏名を書き添へ印を押しすべし
- 六 貯金預け人は貯金預所より貯金通帳を受取り其表紙へ貫籍住

職所原本ノマ

- 職所業氏名を書き入れ且印鑑の部へ印を押しすへし
但印判を所持せずして引受人を立てたるものは通帳印鑑の部へ引受人の印を押しすへし
- 七 貯金通帳は預け金受取り渡しの際と成すべし
- 八 貯金預け人は預け金をなす都度其預金と共に貯金通帳を貯金預所の主任のものへ渡すべし然るときは貯金預所にて通帳に預け金高及び年月日を書き入れ主任者の氏名を認め貯金預所の印並に主任者の印を押し預け人に渡すへきに付預け人は右書き入れの正しきや否やを問へ其通帳を所持すへし
- 九 一度に五十圓を超過したる金高を預け度ものは其都度貯金預所に至り願書用紙を申受け之れに金高及び年月日住所氏名を書き入れ印を押し驛遞局に差出し認可を得て預け金をなすへし
但認可済の認可願書を受領したる後預け金を爲す能はざる時

財産契約

は其願書を添へ取消方を申出へし

十 貯金を預るときは驛遞局にて原簿に記るし且貯金領収の通知書を其預け人の住所へ送るへし

但本文通知書は社寺會社の貯金なれば其社寺會社へ宛て又共同者の貯金なれば其総代人へ宛て送るへし

十一 貯金預け人は貯金預所へ預け金を渡したる日より數へて左の日限内に貯金領収通知書到達せざるときは其日限の翌日より數へて日數十五日の内に其譯柄を認めたる申告書を驛遞局へ出すへし若し又右通知書到達するとも預け金高又は年月日等に違ひあるときは通知書到達の翌日より數へて日數十五日の内に前文同様の申告書を驛遞局へ差出すへし

但申告書は郵便局に差出し其受取證書を受取り置へし

一東京は

三十日

一東京より百里以内の地は

三十日

一東京より百里以外の地は

六十日

十二 貯金預け人は始めて預け金をなしたる日より數へて滿六ヶ月毎に驛遞局へ貯金通帳を差出し原簿の突合せ及び利子の書き入れを受くへし

十三 貯金通帳の預け金を記する場所尽きたるときは驛遞局へ其通帳を出して再度の通帳を受取るへし

十四 甲の貯金預所にて受取りたる通帳にて乙丙丁何れの貯金預所へも預け金をなすを得へし

十五 既に貯金預所より貯金通帳を受取りて所持せるものは何れの貯金預所にも別の通帳を受取るを得ず

十六 貯金預け人は何れの貯金預所にも其貯金の全高若しくは其内幾分の拂戻を受ることを得へし

但未だ元金に組込まざる利子は貯金の全高を拂戻すときにあ
らされは受取ることを得ず

十七 貯金の拂戻しを願ふ人は貯金預所に至り拂戻願書の用紙を
申受け之れに拂戻金高并に其金を受取るべき貯金預所の地名年
月日貫籍住所職業氏名を書き入れ印を押し貯金通帳を添へ貯金
預所を経て驛遞局へ出すへし

但貯金預所より通帳の受取證書を受取り置くへし

十八 前條の拂戻願書及び通帳驛遞局へ到着したるときは貯金拂
戻證書を其願ひ人の住所へ送るへし

十九 預け金の全高を拂戻すときは貯金通帳を戻さす又其幾部分
を拂戻すときは驛遞局にて其通帳に拂戻し金高及び年月日を記
るし主務者の名を認め官印並に主務者の印を押し貯金預所を經
て戻すへし

二十 貯金拂戻し願ひ人は拂戻證書に氏名を書き入れ印を押し通
帳の受取證と共に貯金預所へ差出し之れと引替に拂戻金を受取
るへし

二十一 代人にて拂戻金を受取るものは拂戻證書の裏面に代人某
に受取方を委任せし旨の文言及び自身の氏名を認め印を押し且
其代人をして前條の手續をなさしむへし

但通常の委任狀を以て代人へ受取方を委任するを得ず

二十二 貯金預け人死亡のときは其財産を受け継ぐべき人にて證
人を立て預け人某何年月日死亡自分其財産を受け継ぐべき人た
る旨の文言を記るし證人連印の書面を出し且第十七項の手續を
なし貯金拂戻しを願出つへし

二十三 預け金をなすとき印判を所持せず引受人を立てたるもの
は願書及び拂戻し願書其他印を押すべき書面に氏名を記るし其

引受人氏名を記るして印を押すへし

二十四 社寺社會の名を以て預け金なすときは預け願書及び拂戻し願書其他印を押すべき書面に社寺會社所在の地名及社寺會社の名を記るし其印を押し且貯金擔當者一名を定め其者の氏名を記るし印を押すへし

二十五 二人以上申合せ預け金をなすときは総代人一名を定め預け願書及拂戻し願書其他印を押すへき書面に其総代人の氏名を記るし印を押し且其甲合人の内一名の氏名を記るし印を押すへし

二十六 社寺會社の貯金又は數人申合の貯金は其社寺會社或は其総代人を以て一個の預け人と看做すへし

二十七 貯金預け人の引受人社寺會社の貯金擔當者數人申合の貯金の加印者を變する事あるときは後の引受人擔當者加印者と貯

金預け人と連印(引受人ある貯金預け人は氏名のみ連記)にて驛遞局に届書を差出すへし

二十八 數人申合の貯金の総代人を變せんとするときは前の総代人と後の総代人と加印者と連印にて驛遞局に届出つへし

但前の総代人死亡失踪等にて連印すること能はざるときは本文願書に其旨を記るし證人を立て證人連印すべし

二十九 印判を所持せず引受人を立てたる貯金預け人其引受人を解かんとするときは本人の印鑑を添へ引受人連印にて驛遞局に届書を差出すへし

三十 拂戻し金は其拂戻し證書の日付より左の期限内に受取るへし若し其日限を越ゆるときは其證書を驛遞局に差出し書換を乞ふへし

一東京

十五日

- 一 東京より百里以内の地は 廿五日
- 一 東京より百里以外の地は 四十日
- 三十一 貯金預け人改名改印する紙又は住所を轉したるときは驛遞局へ届書を差出すべし
- 三十二 貯金通帳又は貯金拂戻證書紛失賊難等に係り或は甚しく破れ損したるときは證人を立て驛遞局に其譯柄を届出て更に新規の通帳又は拂戻證書を中受くべし
- 三十三 貯金通帳紛失又は賊難に係り再度の通帳を申受けたるときは其通帳を發したる日より數へ日數九十日の間拂戻しを乞ふことを得す
- 但嚮きに紛失せし通帳若くは拂戻證書發見したる時は其通帳又は證書を返納すべし
- 三十四 利子の記入其外にて驛遞局へ貯金通帳を差出したるとき

或は貯金の拂戻しを乞ひたるとき第十一項に記する日限内に右の通帳を戻さる紙又は拂戻證書到達せされは驛遞局へ其旨申出へし

三十五 貯金通帳は買ひ買ひ譲り渡し又は書入れ質入れなすべからず

三十六 貯金の受け渡しに属する證書は證券印紙を用ゆるに及ばず

三十七 貯金取扱ひ休日左の通

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 一月一日 | 二日 | 三日 |
| 一 新年宴會 | 一 孝明天皇祭 | 一 紀元節 |
| 一 春季皇靈祭 | 一 神武天皇祭 | 一 秋季皇靈祭 |
| 一 神宮神嘗祭 | 一 天长節 | 一 新嘗祭 |
| 十二月廿九日 | 三十日 | 三十一日 |

一日曜日

三十八 貯金は驛遞局貯金預所の標札を掲けたる家にて取扱ふべし

明治十八年一月

驛 遞 局

貯金利子ノ割合

- 一人ノ預ケ金高千圓以上ハ一ケ年四分八厘
- 但積年ノ預ケ高千圓以上ニ昇リタルハ其昇リタル翌月ヨリ
- 全額へ本行ノ利子ヲ附スベシ
- 一人預ケ金高千圓マテハ一ケ年六分

明治十八年一月

驛 遞 局

第 一 表

本表ハ一月ヨリ十二月マテノ預ケ金元利計算ヲ示シタルモノナリ

月次	預ケ金	利	息	月次	越 高	預ケ金	利	息	
一月	五	圓	〇	七月	三十圓二十七錢五厘	圓	十五錢一厘五毛		
二月	五	圓	二錢五厘	八月	五	圓	十七錢六厘五毛		
三月	五	圓	五	九月	五	圓	二十錢一厘五毛		
四月	五	圓	七錢五厘	十月	五	圓	廿二錢六厘五毛		
五月	五	圓	十	十一月	五	圓	廿五錢一厘五毛		
六月	五	圓	十二錢五厘	十二月	五	圓	廿七錢六厘五毛		
計	三十	圓	三十七錢五厘	計	六十圓二十七錢五厘	圓	一圓廿八錢四厘		
元利合計三十圓二十七錢五厘				元利合計六十一圓六十五錢九厘					

財産契結

十八年六月十日
六日遊覽船内
記簿通知ヲ以
テ(一度五十
銭)ヲ(一度
五十円)ト訂
正ス其通知ハ
後ニ出

第 貳 表

本表ハ一度預クシ金額數年間据置ノ元利合計ヲ示シタルモノナリ

年次	預高	預据置					
		一度十圓	一度五十圓	一度百圓	一度五百圓	一度千圓	一度千圓
初年	100	100	100	100	100	100	100
二年目	100	100	100	100	100	100	100
三年目	100	100	100	100	100	100	100
四年目	100	100	100	100	100	100	100
五年目	100	100	100	100	100	100	100
六年目	100	100	100	100	100	100	100
七年目	100	100	100	100	100	100	100
八年目	100	100	100	100	100	100	100
九年目	100	100	100	100	100	100	100
十年目	100	100	100	100	100	100	100
十一年目	100	100	100	100	100	100	100
十二年目	100	100	100	100	100	100	100
十三年目	100	100	100	100	100	100	100
十四年目	100	100	100	100	100	100	100
十五年目	100	100	100	100	100	100	100
十六年目	100	100	100	100	100	100	100
十七年目	100	100	100	100	100	100	100
十八年目	100	100	100	100	100	100	100
十九年目	100	100	100	100	100	100	100
二十年目	100	100	100	100	100	100	100

第 一 表

本表ハ數年間毎月預ク金ノ元利合計ヲ示シタルモノナリ

年次	預高	預据置					
		一度十圓	一度五十圓	一度百圓	一度五百圓	一度千圓	一度千圓
初年	100	100	100	100	100	100	100
二年目	100	100	100	100	100	100	100
三年目	100	100	100	100	100	100	100
四年目	100	100	100	100	100	100	100
五年目	100	100	100	100	100	100	100
六年目	100	100	100	100	100	100	100

財產契約

本年丙第三十八號達ハ前ニ

○明治十八年六月十六日滋賀縣内記課通知
本年五月丙第三十八號達別紙心得表題ノ貯金預けノ下ニ方ノ字ヲ脱
ス并貯金利子ノ割合第二表預高表目中一度五十錢ハ五十圓全第三
表上段六年目ノ次ニ五年ハ七年ノ誤植ニ付正誤ス
第三百五十九條 驛遞局貯金勸奨方等ノ事

○明治十八年七月六日滋賀縣丙第七十五號達北役
驛遞局貯金勸奨方ノ儀ニ付テハ履及告諭候次第モ有之候處今般各
郵便局ニ於テ該事務爲取扱候旨驛遞總監ヨリ達有之候ニ付テハ此
際猶一層懇篤諭示可致且右増設ニ付該取扱人及ヒ身元引受人等資
産調査ノ爲メ大津驛遞出張局員派出相成候條万事承合郵都合無之
様可取扱將今後該局員并ニ取扱人ヨリ勸奨方ノ義ニ付申談候儀モ
有之候ハ、可然協議可致此旨相達候事
但先年約束郵便施行ノ當初其役場ニ於テ新設セシ郵便函ノ義ニ

十八年五月三十日滋賀縣乙
第二十六號達
ヲ以テ戸長檢
査買得者トナ
リタル場合等
ニ付附合アリ
其達ハ後ニ出

本年本縣乙第
十四號達ハ前

付自然不用ニ屬シ候分同派出員ヨリ協議候義モ有之候ハ、相當
示談可致事

第三百六拾條 戸長所有ノ地所建勸船舶等質入書入賣買等公証取
扱方ノ事

○明治十八年三月三十日滋賀縣乙第十四號達北役所 役場
戸長所有ノ地所建勸船舶等ヲ質入書入若クハ賣買セシトスル時公
証取扱方ノ儀ニ付今般其筋ヨリ達ノ次第モ有之候條自今右ノ場合
ニ於テハ戸長ノ資格ヲ以テ成規ノ通公証ヲナシ郡長ノ檢閲ヲ受ク
ヘシ郡長ニ於テハ檢閲ノ証トシテ公証帳簿ト証書トニ役所ノ名印
ヲ以テ割印ヲ與フヘシ此旨相達候事

○明治十八年五月三十日滋賀縣乙第貳拾六號達北役所 役場
戸長所有ノ地所建勸船舶等ヲ質入書入若クハ賣買セシトスル時公
証檢閲ノ儀ニ付本年三月本縣乙第十四號ヲ以テ相達候次第有之處右

十九年一月四日
滋賀縣訓示
ヲ以テ共有地
ニ付説明アリ
其訓示ハ第五
編ニ載ス

八年第四百十
八號布告ハ本
政官ノ布告ニ
シテ滋賀縣ノ
布令ニ非ス故
ニ登載セズ但
民事成文法類
編初編第二百
四十四條ニ出

物件讓與ハ勿論戸長債主又ハ買得者トナリ若シハ共有ノ地所建物
等ヲ戸長ニ於テ質入書入及賣買セントスルモ該達ニ依リ郡長ノ
檢閲ヲ受クヘキ義ト心得ヘシ此旨相違候事
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ消滅ニ屬ス

第三百六拾壹條

生存者ノ家督相續ニ係ル建物船舶讓渡ノ儀公證
ヲ要スルノ事

○明治十八年六月四日滋賀縣訓示
郡長、戸
生存者ノ家督相續ニ係ル建物船舶讓渡ノ儀ハ明治八年九月第四百十
八號布告建物賣買讓渡規則第一條ノ手續ヲ爲スニアラカレハ其相
續人ニ所有權移轉セサルハ勿論ノ義ト心得ヘシ此旨訓示候事

○第八款

小作米則

○第九款

證書式則

○第十款

證券印界紙貼用方途印界紙費捌千圓ニ係ル能

○第拾六章

警察

○第壹款

行政警察總則則

○第貳款

非常警備及火防

第三百六拾貳條

監獄署出火反獄ノ警警戒信號ノ事

○明治十八年四月二十三日滋賀縣甲第四拾九號布達
近傍郡各社ヘ
(本文ハ第三
七拾壹條ニ出)

○第三款 盜難報告

○第四款 不真ノ徒取締

第三百六拾三條 虛無僧類似ノ風体ヲ爲シ徘徊米錢ヲ乞フ儀禁止

ノ事

○明治十八年五月六日滋賀縣甲第五拾五號布達

(本文ハ第八條ニ出)

第三百六拾四條 各地ヲ巡廻シ犬取リヲ爲サントスル者認可ヲ受

クヘキ事

○明治十八年八月一日滋賀縣甲第百拾五號布達

自今各地ヲ巡回シ犬取リヲ爲サントスル者ハ其都度該地所轄警察署へ届出認可ヲ受クヘン此旨布達候事

○第五款 巡查

○第拾七章 民事訴訟及治罪

○第壹款 裁判所構成權限并成規

第三百六拾五條 違警罪即決例

(考)明治十八年九月二十四日太政官第三拾壹號布告司法省

明治十四年九月第四拾四號布告及同年十一月第八拾號布告ヲ廢止シ

違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理シル官吏ハ其管轄地内ニ

於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘン但私訴ハ此限ニアラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取

民事訴訟及治罪

調へ直ナニ其言渡ヲ爲スヘシ
 又被告人ヲ呼出スコトナク若シハ呼出シタリト雖モ出廷セサル
 時ハ直ナニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得
 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求
 スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直ナニ上訴ヲ爲スコトヲ
 得ス
 第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ
 場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ
 期限并ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載ス
 ヘシ
 第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署
 ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ
 言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達ア
 レシ

リタルヨリ五日内トス
 第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴
 訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スベシ
 第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ
 即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス
 第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ
 後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得
 第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セムヘシ若シ
 納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル
 者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
 第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ
 相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第
 五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數

十四年第七十二號公布ハ太
政官ノ布告ニ
シテ滋賀縣ノ
布令ニ非ス故
ニ登載セズ但
衛生布令ニ依
ル

ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ
出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シ
テ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達ア
リタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ
又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第三百六十六條 諸規則中拘留科料ニ處スル者處分方

○明治十八年二月二十七日滋賀縣訓示 課税課役所
戸長役場へ

明治十四年第七十二號公布發令後ニ係ル諸規則中拘留科料ニ處ス
ル者處分方ノ儀ニ付別紙ノ通指令有之候條心得ノ爲メ此旨訓示候
事

初編第六十
三條ニ出

(別紙)

裁判管轄ノ儀ニ付伺

第一條 客月四日付ヲ以テ明治十四年第七十二號公布發令后ニ係
ル諸規則中拘留科料ニ處スル者ハ警察署分署ニ於テ裁判可致候
相伺候處伺ノ通リト御指令有之然ルニ右發令後ニ係ル諸規則
ハ發令後制定セラレタル郵便條例船稅規則地租條例商標條例等
ノ類ニシテ烟草稅則証券印稅規則等ノ如キ該公布發令后ノ改正
ニ係ルモノト雖モ其規則ノ制定ハ該公布發令前ニアルヨリ以テ輕
罪裁判所ニ於テ裁判スヘキモノナル乎

第二條 前條証券印稅規則烟草稅則ノ如キ七十二號公布發令后ノ
改正ニ係ルモノト雖モ警察署分署ニ於テ裁判スヘキモノナル時
ハ其規則ノ内幾分ノ改正ニ係ルモノモ該公布發令前後ニ依リ區
分シ裁判管轄ヲ定メサルヲ得スト雖モ酒造稅則ノ科料ニ處スル

ノ條項ノ如キハ改正ニ係ルモノト係ラサルモノトアリテ其管轄
 甚錯雜ナルニ依リ規則全部ノ改正ニ係ルモノハ警察署分署ニ於
 テ裁判シ其幾分ノ改正ニシテ其規則ノ制定七十二號公布發令前
 ニ在ルモノハ總テ輕罪裁判所ニ於テ裁判スヘキ儀ニ候哉
 第三條 諸規則中罰金科料ノ範圍ナクシテ單ニ脱税高ノ幾倍ナ科
 ストアルモノハ假令其金額五錢以下又ハ一圓九十五錢以上二圓
 未滿ニ當ルモノト雖モ前號七十二號公布第三條ニ二圓以上ナ罰
 金二圓未滿チ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ストアルニ
 依リ輕罪違警罪ニ區別シ處分スルコト得ヘシト雖モ右七十二號
 公布發令後ニ係ル證券印稅規則等ニ於テ五錢以下又ハ一圓九十
 五錢以上二圓未滿ニ當ルモノ、如キハ輕罪違警罪ノ區別如何相
 心得可然哉
 右相同候條至急御指令被下度候也

明治十七年九月十九日

滋賀縣令中非

弘

司法卿山田顯義殿

(朱書)

伺之趣左ノ通心得可シ

第一條 七十二號公布發令後ニ係ル諸規則トハ發令後ニ制定セ
 ラレタル者ハ勿論全部改正セラレタル者ヲモ包含ス但發令前
 頒布セラレタル規則ノ追加若クハ其幾部ノ改正ニ屬スル者ハ
 此限ニ在ラス

第二條 前條指令ニ依テ了解ス可シ

第三條 五錢未滿又ハ一圓九十五錢以上二圓未滿ニ該ルモノハ
 總テ違警罪トシテ處分スヘシ

明治十八年二月十二日

民事訴訟及治罪

○第二款 喚問並令狀附

○第三款 告訴並搜查

第三百六十七條 地所建物船舶質入書入ノ公證ヲ受ケタル者出訴

期限之レナキ事

○明治十八年七月一日滋賀縣乙第三十三號達郡役所、戸長役場へ

地所質入書入建物船舶書入質ノ公證ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之旨今般其筋ロリ達相成候條爲心得此旨相達候事

○第四款 審理附

○第五款 訴訟用紙附

○第六款 原被告人及訴訟代人附

○第七款 使丁

第三百六十八條 大津始審治安裁判所及彦根支廳治安裁判所使丁

賃錢更正ノ事

○明治十八年六月二十四日滋賀縣甲第八十五號布達

明治十五年一月本縣甲第十八號及同年月六甲第九號ヲ以テ及布達

置候彦根始審裁判所並彦根治安裁判所書記局所屬ノ使丁ナシテ刑

事民事上人民へ送達スル諸書類賃錢今般左ノ通り更正候旨大津始

審裁判所彦根支廳ヨリ通知有之候條此旨布達候事

○

一彦根市内

金一錢五厘

十五号本縣甲
第十八號及甲
第九號布達
ハ初編第八百
七十二條(第
四卷五百三十
及五百四丁)
二出

十五年本縣甲
第七號布達ハ
初編第八百七
十二條(第四
卷五百二丁)
ニ出

一市外半里以下 金一錢八厘

一 半里以上 金二錢二厘

一 一里以上 金四錢四厘

一 一里半以上 金六錢六厘

一 二里以上滿一里毎 金四錢四厘

○明治十八年八月五日滋賀縣甲第一百十六號布達

大津始審裁判所並大津治安裁判所使丁賃錢之儀ニ付明治十五年一月
本縣甲第七號ヲ以テ及布達置候處今般左ノ通り改正候旨同裁判所
ヨリ照會有之候條此旨布達候事

○

一 大津市街 半里以下 金一錢五厘

一 同 近村 半里以上 金二錢

其他ハ從前ノ通一里 金四錢四厘

郵便條例ハ十
五年十二月十
六日太政官第
五十九號布告
ニシテ該條例
ノ布令ニ非ス
故ニ登錄セス

○第八款 身代限

第三百六十九條 民事裁判上身代限財產公賣處分ノ節所持ノ郵便
切手買戻ノ事

○明治十八年四月四日滋賀縣乙第十五號通_{長役場へ}達

郵便條例第三十七條郵便切手買戻ノ儀ハ四枚以上聯續シタル者ニ
アラサレハ其買戻ノ請求ヲナスヲ得サル成規ニ有之候處民事裁判
上身代限財產公賣處分ノ時ニ限リ其枚數ノ多寡ヲ問ハス聯續セザ
ル者ト雖モ驛遞本局若シハ驛遞出張局兼攝郵便局ニ於テ郵便條例
第三十七條ニ準據シ特別ヲ以テ買戻可相成旨其筋ヨリ通知有之候
條爲心得此旨相達候事

十五年本縣甲
第十五號布達
ハ初編第八百
七十九條(第
四卷五百二十
五丁)ニ出

第二條云々

十九 官ノ認可ヲ得ズ瘋癲人ヲ鎖鎖シタル者

○明治十八年十月十二日滋賀縣甲第四百四十二號布達

明治十五年一月本縣甲第十五號布達違警罪目第三條第四項削除候條

此旨布達候事

○第二款 懲罰則

第三百七十三條 賣淫懲罰例改正ノ事

○明治十八年六月六日滋賀縣甲第七十號布達

(本文ハ第三百
四十六條ニ出)

第三百七十四條 大津市街軒下地へ檢査ヲ受ケス家屋牆壁軒盤等

ヲ出シタル者ノ罰則

○明治十八年七月十三日滋賀縣甲第一百一號布達滋賀郡大津市街へ

(本文ハ第三百
七十二條ニ出)

第三百七十五條 驛傳營業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年七月一日滋賀縣甲第九十號布達驛傳營業取締規則第

三十條第三十一條第三十二條

(本文ハ第三百
四十七條ニ出)

第三百七十六條 湖上漁船取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

明治十八年二月三日滋賀縣甲第十號布達

(本文ハ第百八條ニ出)

○明治十八年七月二日滋賀縣甲第百五號布達旅船取締規則第十九條第二十條

(本文ハ第百八條ニ出)

第三百七十七條 旅客和船取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年三月十一日滋賀縣甲第三拾六號布達旅客和船取締規則第十五條第十六條

(本文ハ第百九條ニ出)

○明治十八年五月二十五日滋賀縣甲第六十二號布達旅客和船取締規則改正第十五條

(本文ハ第百九條ニ出)

○明治十八年七月七日滋賀縣內記課通知

(本文ハ第百九條ニ出)

第三百七十八條 醫師藥舖產婆營業規則ニ違背シタル者ノ罰則廢止ノ事

○明治十八年三月三十日滋賀縣甲第四十號布達

(本文ハ第百三十七條ニ出)

第三百七十九條 鍼灸術並ニ按摩營業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年十二月二十一日滋賀縣甲第百八十號布達鍼灸術並按摩營業取締規則第十條

(本文ハ第百四十條ニ出)

第三百八十條 入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年十二月二十一日滋賀縣甲第百八十一號布達入齒齒抜

口中療治接骨營業取締規則第九條

(本文ハ第二四十一條ニ出)

第三百八十一條 產婆營業規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年三月三日滋賀縣甲第三十三號布達產婆營業規則第十條第十二條

(本文ハ第二四十四條ニ出)

○明治十八年三月二十一日滋賀縣内記課通知

(本文ハ第二四十四條ニ出)

第三百八十二條 藥舖藥種商營業規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年三月三日滋賀縣甲第三十二號布達藥舖藥種商營業規則第二十三條第二十四條第二十五條

(本文ハ第二四十五條ニ出)

第三百八十三條 繭絲業組合規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年十二月二十一日滋賀縣甲第七十七號布達繭絲業組合規則第十三條

(本文ハ第二三十三條ニ出)

第三百八十四條 織物業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年十二月二十六日滋賀縣甲第八十五號布達織物業取締規則第九條

(本文ハ第二二十六條ニ出)

第三百八十五條 貸座敷及ヒ娼妓營業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年六月一日滋賀縣甲第六十七號布達貸座敷及ヒ娼妓營業取締規則第三章

(本文ハ第三四十三條ニ出)

第三百八十六條 遊妓舞子營業取締規則ニ違背シタル者ノ罰則

○明治十八年六月一日滋賀縣甲第六拾八號布達遊藝妓舞子營業取締規則第七條第八條

(本文八第三百四十四條二款)

○第貳拾章 種々ノ規則

○第壹款 行幸行啓圖

○第貳款 御像尊職圖

○第三款 御紋章圖

○第四款 徽章圖

○第五款 服制

第三百八拾七條 警部長以下并ニ巡查服制中改正ノ事

(考)明治十八年十月十九日太政官第五拾九號達東京府ヲ除ク府縣ヘ

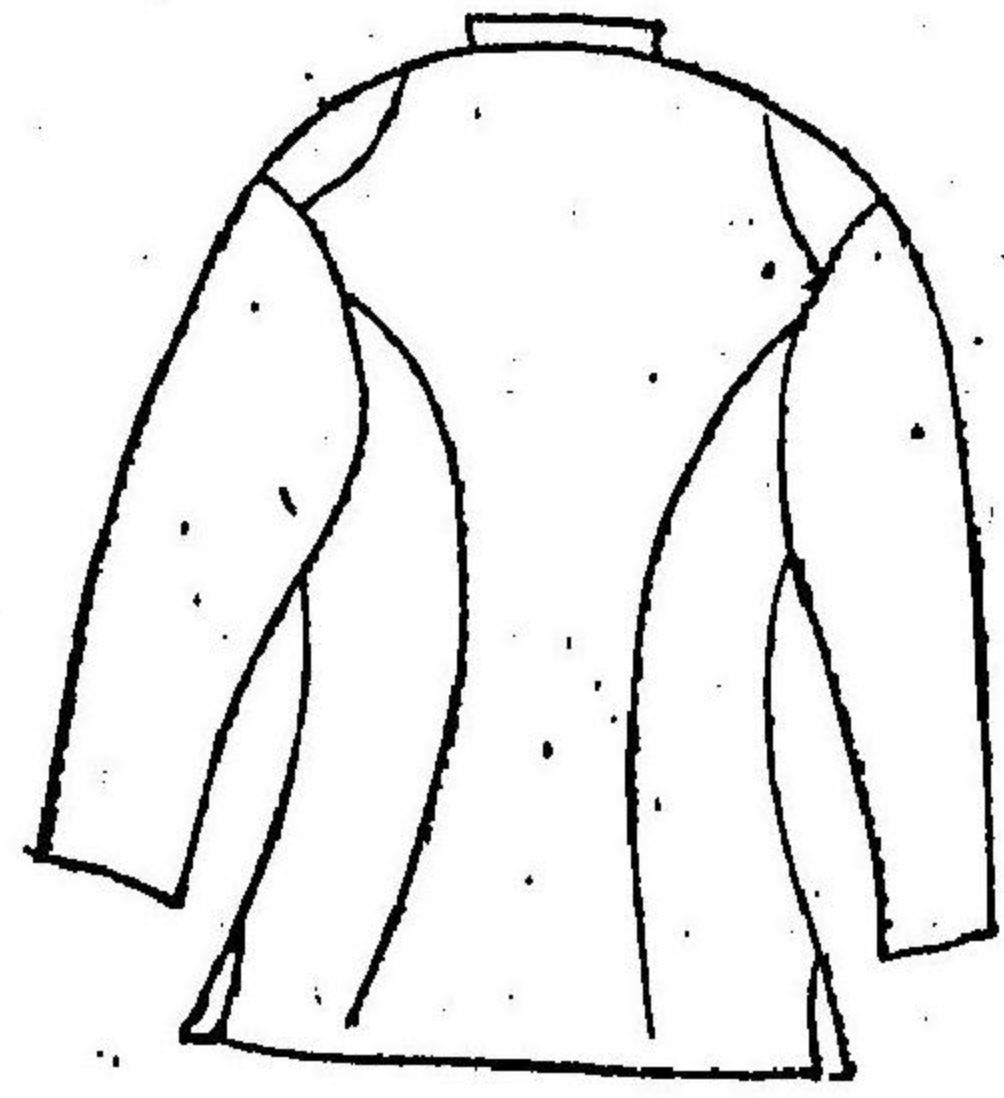
明治十七年一月第拾貳號達警部長以下正帽正服制表中警部以下徽章

及ヒ明治十三年一月第拾五號達府縣巡查制帽制服表中左ノ通改

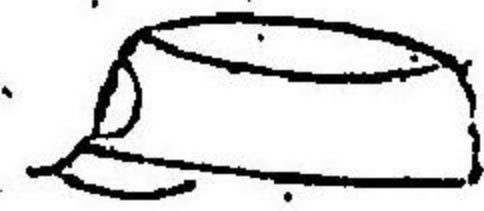
正候條此旨相達候事

十七年太政官
第十二號達八
第三編第四百
八十五條(下
卷九百三十六
丁)ニ出十三
年第六十五號
達(初編第九
百九條中(第
四卷五百七十
三)ニ出

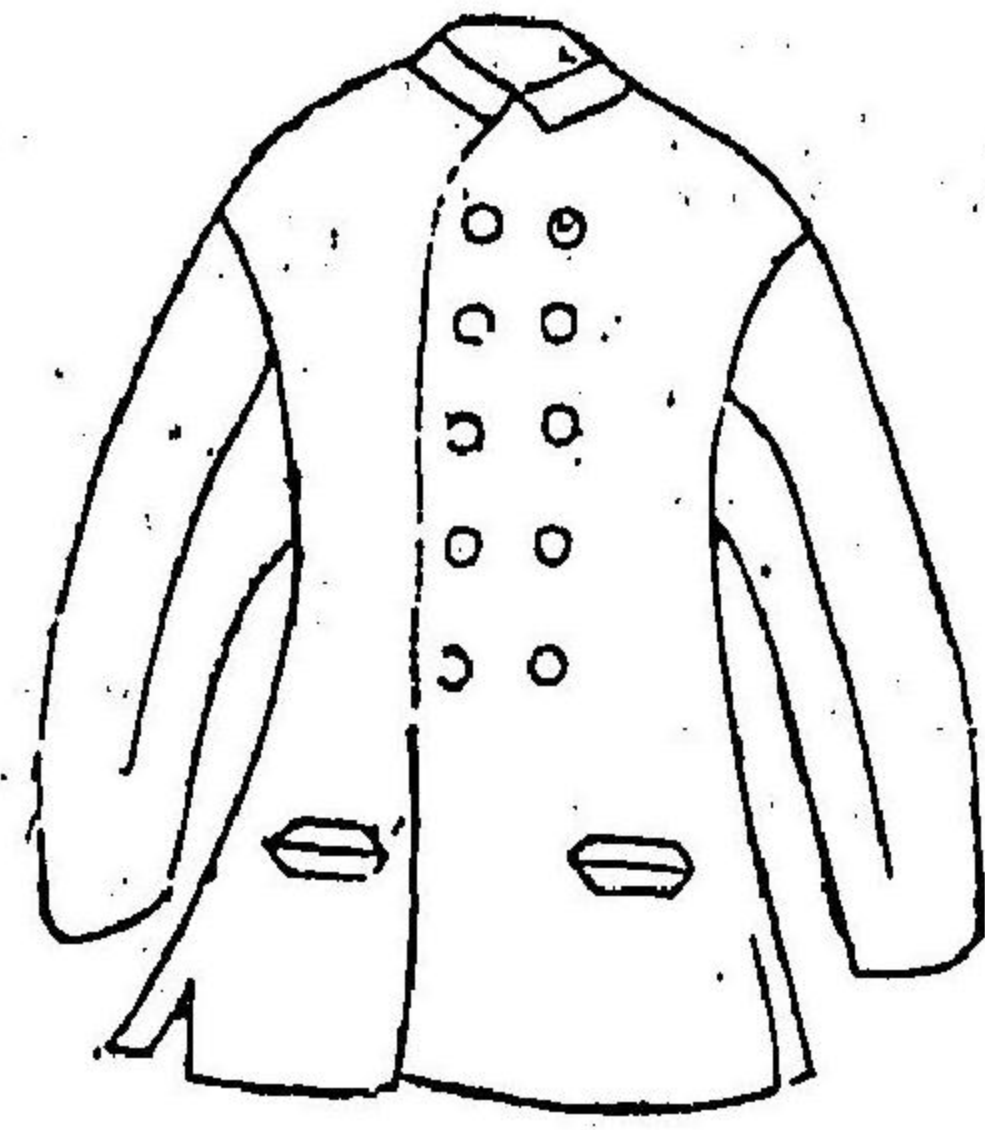
後面



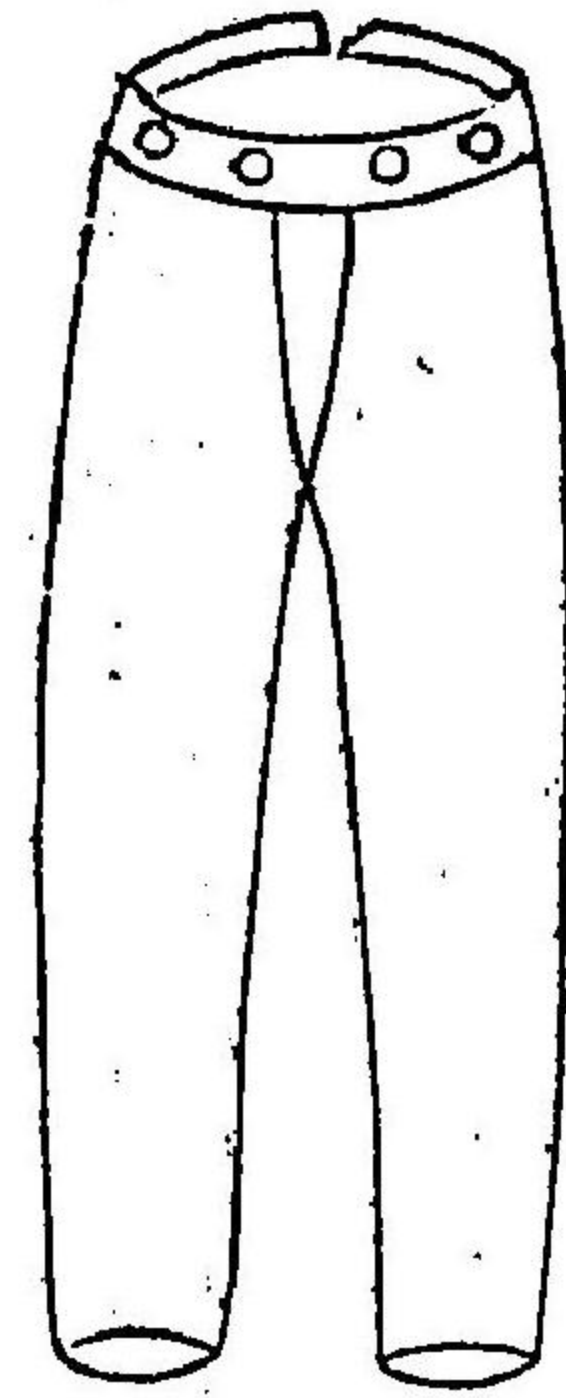
帽

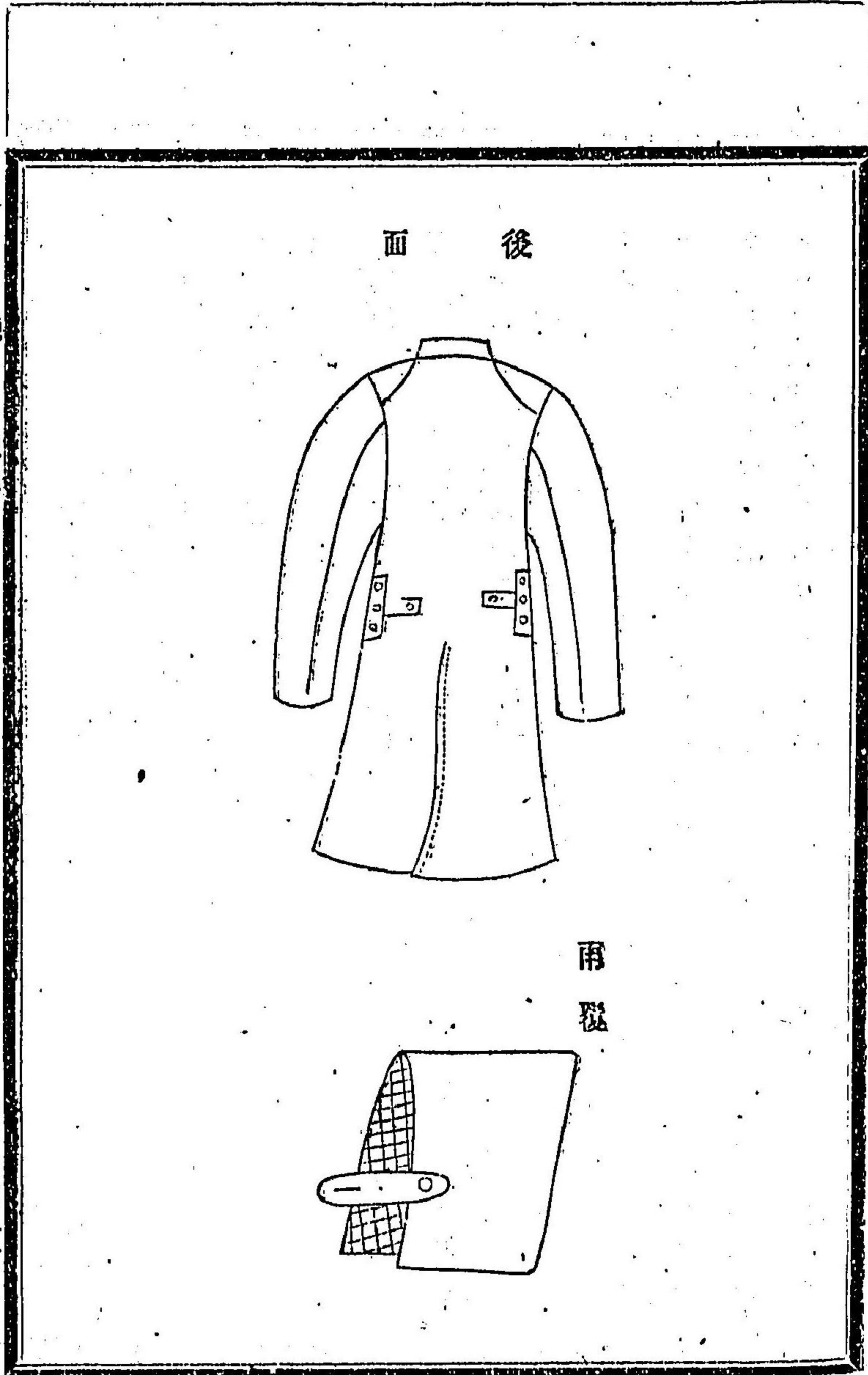


前面

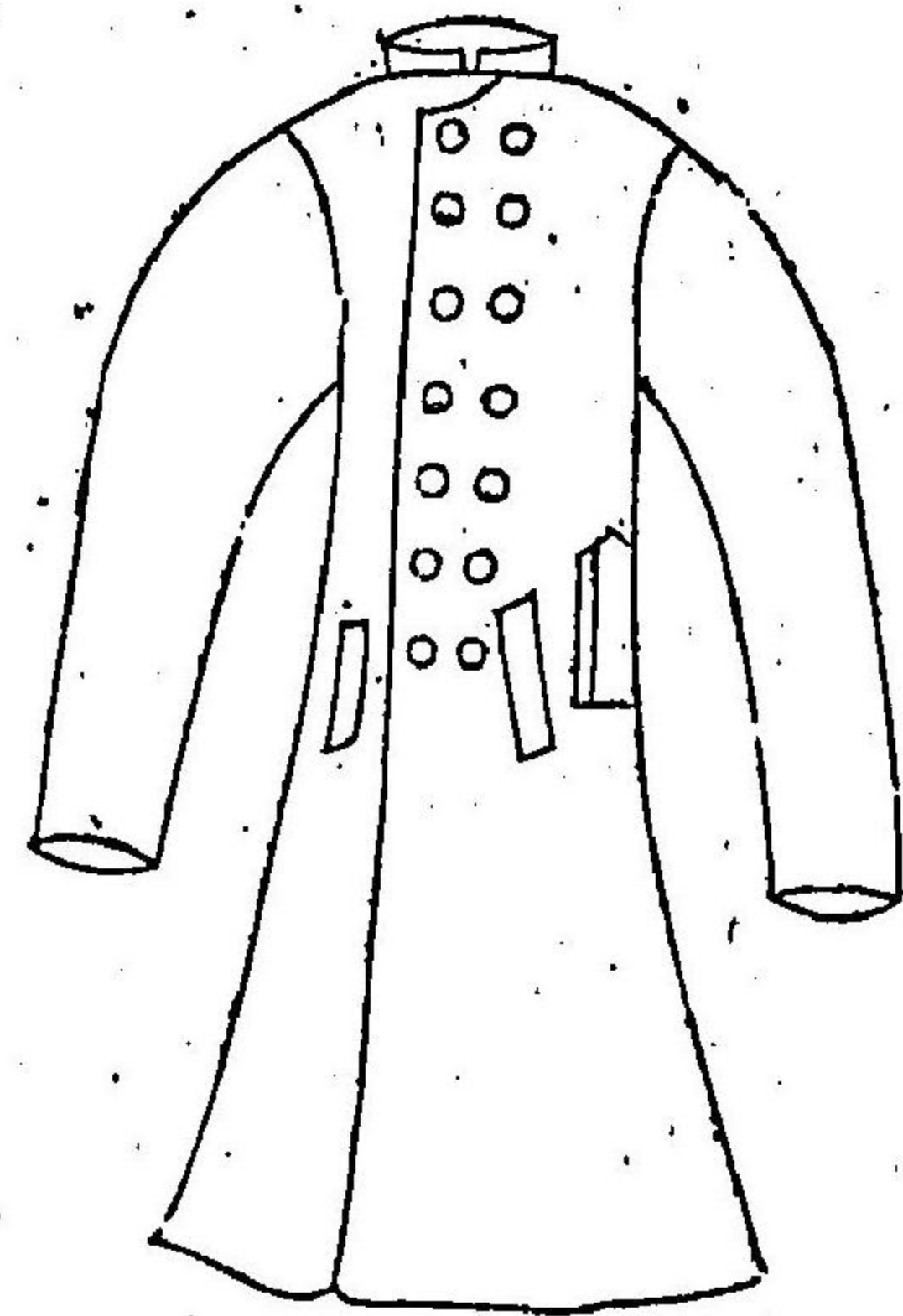


袴

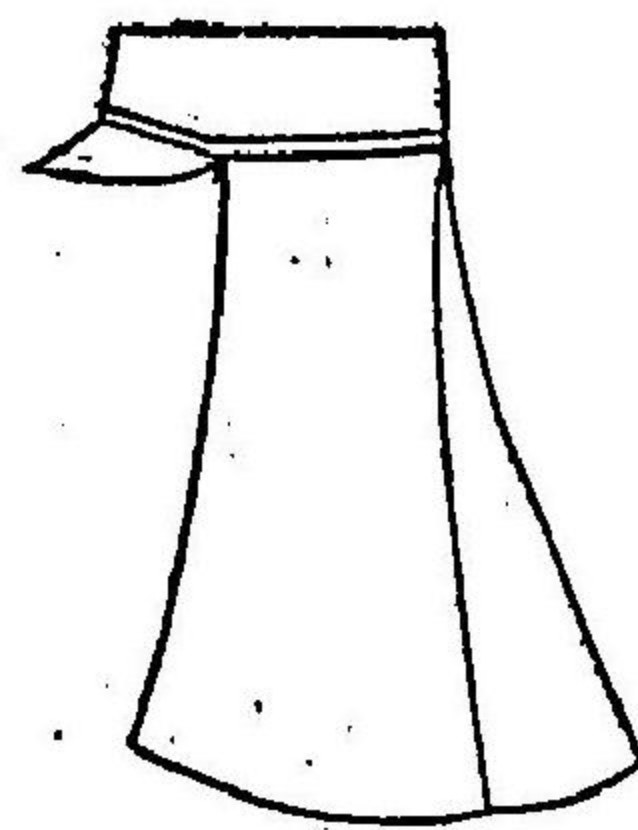




面 前 雨 衣



日 襪 白



凡 例 外套ハ丈ク踵上五寸後裂ケ股上一寸ニ止ル但シ便宜黒紺地引廻シ合羽ヲ以テ之ニ代用スルヲ得其丈クハ手ヲ垂下シテ手根ニ至ルヲ度トス	無 徽 章	外 套	警 部 長 警 部 外 套 并 帽 日 襪 表 圖
	金 日 章 <small>俱其數圖ノ如シ</small>	同 卸	同 地 質
	紺 黒 絨	同 地 質	帽 日 襪
	無 徽 章	同 地 質	同 地 質
	雨 襪 紺 黒 絨 日 襪 白 適 宜 色		

○第六款 發砲圖

○第七款 集會圖

○第八款 時報圖

○第九款 氣象

第三百八十八條 震災報告方ノ事

○明治十八年四月七日滋賀縣地丙第八〇五號達甲賀郡

震災ノ議ニ付別紙ノ通地理局長ヨリ照會有之候條地震アル時々速

ニ全局ニ報告シ同時當廳ニモ申出ヘシ此旨相達候事

(別紙)

本邦ノ地タル火山温泉極テ多ク從テ地震ノ如キ之ヲ他邦ニ比スレハ其數夥多ナルイニナラス殊ニ大ニシテ烈ナル者亦不尠近クハ安政二年江戸大震ノ如キ轉瞬ノ間ニシテ數千万家ヲ傾頽シ五拾餘所ニ發火シ老若男女十萬餘人ヲ壓死焚殺セシハ世人ノ記スル所ナリ

爾來幸ニシテ強震ナシト雖モ地變ノ發見ハ豫測スヘカラス何時再發候哉モ計リ難シ故ニ當局ニ於テ夙ニ其驗測ニ從事シ豫防ノ方法ヲ講覽ス然ルニ元來地震ハ東洋及西洋ノ南部ニ多クシテ英佛獨露等ノ地ニ少キヲ以テ歐米諸國ノ碩學モ未ク其眞理ヲ洞發セシ者ナシ故ニ本邦ニ於テ地震アル毎ニ精密觀測シテ其眞理ヲ求メサル可カラズ然レド地震ノ發スルヤ一所ニ於テモ必ス數十里如クハ數百里ニ延及ス故ニ二十二測候所ノ觀測ノヨリテハ其要點ヲ見出スヘカラス必ス全國各地ノ報告ヲ得テ仔細ニ對照審查シ其發所及強弱等其他種々ノ顯象ニ依テ其理ヲ極ムルヲ要ス故ニ昨拾七年十二月當廣瀨量課ヨリ各郡區役所ニ及依頼候處最初一二回ノ地震ハ報告相達候得共其後追々相減シ申候本來地震ノ災タルヤ官民公私ノ別ナク災害ヲ蒙ル者ニ候得ハ官民力ヲ戮セ報告ホリシ以テ豫防方法ヲ求メサルヘカラス況ヤ各郡區役所ハ官署ノ邊ニモ有之別シ

ヲ注意有之候様致度候間此旨各郡區長へ御示諭相成地震アル時ハ遺漏ナク速ニ報告相成候様御取計有之度此段御照會旁及御依頼候也

明治十八年三月三十日 地理局長櫻井 勉

滋賀縣令中井 弘殿

追テ明治十七年十二月十六日地震報告ハ各郡區役所悉皆相前不申候得共先ツ報告ヲ製シ官報第四百八十四號へ掲載致候御參看有之度候也

第三百八十九條 暴風警報ニ用フル電信符合ノ事

○明治十八年十月二十一日滋賀縣丙第百十八號達 滋賀縣丙第百十八號達 東深井郡役所坂田今般地理局ニ於テ暴風警報ニ用フル符合相定メ已ニ實施相成候ニ付爾后其郡役所へモ符合ヲ以テ通報スヘシ候條別紙解説ノ通り門前へ揭示其他通知方可取計此旨相達候事

別紙

符合

解説

- (ロカ) 風強カルヘシ
- (ホチ)(ロカ) 東ノ風強カルヘシ
- (ホタ)(ロカ) 西ノ風強カルヘシ
- (ホカ)(ロカ) 南ノ風強カルヘシ
- (ホリ)(ロカ) 北ノ風強カルヘシ
- (ホル)(ロカ) 北東ノ風強カルヘシ
- (ホリ)(ロカ) 南東ノ風強カルヘシ
- (ホユ)(ロカ) 南西ノ風強カルヘシ
- (ホレ)(ロカ) 北西ノ風強カルヘシ
- (ヘチ) 警戒時間ヲ過ルモ尙注意スヘシ
- (ヘナ) 風注意ニ及ハス

第三百九拾條

暴風雨ニテ損害アル節被審員數等報告方ノ達取消ノ事

○明治十八年十二月十四日滋賀縣丙第四百二十二號達滋賀縣役所、犬上、生野、郡役所、上野、郡役所、四野、郡役所、

明治十七年十月本縣戊第六百四十七號達ハ其筋照會ノ次第有之來ル

十九年一月一日ヨリ取消候條此旨相達候事

○明治十八年十二月十四日滋賀縣丙第四百二十三號達東野、郡、甲賀、郡、知、伊香、郡、西没井、高島、郡、役、所、

十七年本縣戊第六百四十七號達ハ現行ニ非ス且第三編第四百八十八條ニ載スル同件ニ付登錄セ

○第拾款 統計本編更ニ此款

第三百九拾壹條 滋賀縣統計書樣式

○明治十八年六月十九日滋賀縣丁第拾四號達課、署、郡、役、所、戶、長、役、場、學、校、病、院、本縣統計書樣式別冊ノ通相定候條此旨相達候事

別冊

滋賀縣統計書樣式

製表通則

一此樣式ハ概テ明治十七年九月内務省乙第三拾六號達府縣統計樣式ニ基キ其材料ヲ蒐集シ本縣統計書ヲ編製スルノ主意ヲ以テ編製セシモノナレハ之レニ據ルヘキハ勿論ナリト雖此事項ノ内閣查ニ多クノ手數ヲ要スルモノハ暫ク之ヲ欠クモ可ナリ但官省

種々ノ規則

- ノ令達等ニ變更アリテ調査ノ事項ヲ變更セシトハ其都度様式ノ大体ヲ指示ス可シ
- 一様式ニ五ヶ年ノ比較ヲ示セルモノヲ六七年若クハ八九年トスルハ妨ケナシ
- 一看者ヲシテ先ツ總体ノ數ニ注目セシメント欲スルモノハ總數ノ字ヲ以テ合計ノ字ニ代ヘ表ノ上詳若クハ首項ニ置キ反之累年ノ比較ヲ要スル事實及各科目ヲ開示スルノ必要アルモノハ表ノ下詳若クハ尾項ニ合計ヲ付ス可シ
- 一本書ヲ調製スル年間ノ事實ヨリハ一年若クハ二年前ノ事實ヲ掲載スルモノハ其表題ノ下ニ何年ノ事實タル旨ヲ明記スルヲ要ス
- 一累年ノ事實ヲ掲シ可キ式ヲ示セルモノハ五ヶ年ノ事實ヲ以テ對比スルモノトス然レモ前年以上ノ事實中測リテ調査ヲ得カクキ者ハ之ヲ將來ニ採ル可シ但年次ノ排列ハ最近ノ年ヲ以テ前項或

- ハ上詳ニ置ク可シ
- 一會計年度調ニ係ル事實ハ曆年調ノ事實ヨリ半年前マテノ事實ヲ掲グルモノトス但明治十九年度ヨリハ會計年度改正ニ付其改正ノ年度ニ依リ前文ニ準シ其事實ヲ掲クヘシ
- 一郡ノ内二郡以上ヲ併テ一郡役所ヲ置ケルモノモ其事實ハ一郡毎ニ掲載スヘシ
- 一市街ハ滋賀郡大津蒲生郡八幡犬上郡彦根阪田郡長濱ヲ云フ
- 一年次トハ曆年、年度トハ會計年度ヲ云
- 一表中ニ郡又ハ署トアル欄内ニ再掲某市街々々其他〔市街ニアラザル場所ヲ云フ〕ト記セルモノハ先ツ各郡又ハ各署ノ事實ヲ掲ケ而シテ後再ヒ市街ノ事實ヲ掲ク可シ
- 一數位記入ノ例ハ様式中特ニ端數ノ稱ヲ示セル者ノ外ハ四捨五入ノ法ヲ用ヒ一位ニ止ム可シ

一 數字ノ句點ハ一位ハ「 \cdot 」〔一位以下ノ小數ヲ記セサル者ハ此点ヲ要セス〕千位及百萬ニハ「 \cdot 」ヲ其右側下ニ施シ一位ノ右側ニ其數置ノ名稱ヲ記ス可シ

一 表中調査未了ノ事實アラハ其欄ニ「 \cdot 」ヲ全ク登記ス可キ事實ナキ者ハ其欄ニ「 \cdot 」ヲ記入ス可シ

滋賀縣統計書樣式目次

土地

- 第一 地勢
- 第二 本縣管轄地ノ沿革
- 第三 本縣ノ位置
- 第四 國郡ノ面積及廣袤
- 第五 地目別ノ面積
- 第六 有無稅地及耕不耕地ノ面積

米後原本ノマ
、米後ノ誤ナ
ラン

- 第七 山嶽ノ景狀
- 第八 原野ノ景狀
- 第九 河川ノ脈絡
- 第一〇 池沼湖ノ周圍及面積
- 第一一 島嶼ノ位置及周圍面積
- 第一二 寒暖
- 第一三 行政區畫
- 第一四 裁判區畫
- 第一五 警察區畫
- 第一六 元標ヨリ各所ヘノ里程
- 第一七 田畑ノ段別及地價
- 第一八 田畑地價ノ最高最低
- 第一九 宅地ノ段別及地價

種々ノ規則

- 戶數及人口
- 第二〇 郡ノ戶數及建物
- 第二一 島嶼ノ戶數
- 第二二 郡ノ人員
- 第二三 島嶼ノ現住人員
- 第二四 本籍人員ノ族籍
- 第二五 本籍人員ノ年齡
- 第二六 現住夫婦及結婚離婚
- 第二七 現住結婚者ノ年齡
- 第二八 現住結婚者年齡ノ對照
- 第二九 現住者ノ出產
- 第三〇 現住者ノ死亡
- 三一 現住死亡者ノ年齡

- 第三二 出入寄留ノ人員
- 第三三 棄兒
- 第三四 在留外國人
- 第三五 兵員
- 第三六 徵兵人員
- 農業
- 第三七 農家
- 第三八 農業者
- 第三九 耕地ノ作付及不作付段別
- 第四〇 自作及小作地ノ段別
- 第四一 米ノ收穫高及植付段別
- 第四二 米ノ播種及收穫時期

- 第四三 米ノ被害段別
- 第四四 大麥小麥裸麥ノ收穫高及播種段別
- 第四五 粟黍稗ノ收穫高及播種段別
- 第四六 蕎麥蜀黍大豆ノ收穫高及播種段別
- 第四七 小豆蠶豆豌豆ノ收穫高及播種段別
- 第四八 藍菜種籩ノ收穫高及播種段別
- 第四九 甘蔗蘆粟烟草ノ收穫高及播種段別
- 第五〇 甘藷馬鈴薯蘿蔔ノ收穫高及播種段別
- 第五一 綿大麻苧麻ノ收穫高及播種段別
- 第五二 桑園
- 第五三 養蠶家及繭糸ノ産額
- 第五四 茶園ノ段別
- 第五五 製茶家及製茶ノ産額

- 第五六 農事會
- 第五七 他府縣及海外へ輸送ノ種苗
- 第五八 他府縣及海外ヨリ輸入ノ種苗

牧畜

- 第五九 牛
- 第六〇 産牛及屠畜牛
- 第六一 牛乳搾高
- 第六二 牛市場ノ賣買頭數及金高
- 第六三 牛ノ相場
- 第六四 馬
- 第六五 産馬及斃馬
- 第六六 馬市場ノ賣買頭數及金高

- 第六七 馬ノ相場
- 第六八 疫馬
- 第六九 疫牛
- 第七〇 屠殺ノ牛豚

山林

- 第七一 官林ノ箇所及段別
- 第七二 官林ノ木數
- 第七三 官林ノ伐木及損害
- 第七四 著名官林ノ段別及木數
- 第七五 著名官林ノ伐木及損害
- 第七六 民林ノ段別及山番人
- 第七七 民林所有者ノ數及所有ニ由テ別ナル段別

- 第七八 民林ノ伐木及損害
- 第七九 木材ノ相場
- 第八〇 銃獵人員

漁魚

- 第八一 漁浦
- 第八二 漁戶及漁人
- 第八三 漁船
- 第八四 水産

鑛業

- 第八五 有鑛質借區現行ノ坑數
- 第八六 有鑛質借區休業ノ坑數

- 第八七 有鐵質試堀ノ箇所
- 第八八 有鐵質ノ製鍊出來高
- 第八九 無鐵質借區現行ノ坑數
- 第九〇 無鐵質借區休業ノ坑數
- 第九一 無鐵質試堀ノ箇所
- 第九二 無鐵質ノ堀採高

工業及製造

- 第九三 製作及製造品
- 第九四 工場
- 第九五 工場ノ製品及代價
- 第九六 度量衡ノ製作高
- 第九七 酒類ノ釀造

土功

- 第九八 道路ノ坪敷及延長
- 第九九 道路ノ新開及修繕坪敷
- 第一〇〇 道路ノ新開及修繕費
- 第一〇一 橋梁ノ個數及坪敷
- 第一〇二 著大橋梁ノ長サ及幅
- 第一〇三 橋梁ノ新架架換及修繕費
- 第一〇四 堤防ノ築造及修繕
- 第一〇五 堤防ノ築造及修繕費
- 第一〇六 溜池及水路
- 第一〇七 修繕ノ溜池及水路
- 第一〇八 溜池及水路修築費

- 第一〇九 上水ノ樹髓管及井戸
- 第一一〇 上水修繕ノ箇所坪數及費金
- 第一一一 港津ノ築造及修繕

商業

- 第一一二 著名港津輸出入物品ノ元價
- 第一一三 著名港津ノ輸出物品
- 第一一四 著名港津ノ輸入物品
- 第一一五 著名港津出入ノ船舶
- 第一一六 湖運ノ賃錢
- 第一一七 某米商會所
- 第一一八 某米商會所賣買出來高
- 第一一九 某米商會所限月平均相場

- 第一二〇 商業諸會社
 - 第一二一 卸賣商
 - 第一二二 仲買商
 - 第一二三 小賣商
 - 第一二四 雜商
 - 第一二五 市場ノ問屋及仲買
 - 第一二六 市場ノ賣買金高
- 貨幣ノ融通
- 第一二七 公債證書ノ所有者及額面金高
 - 第一二八 公債證書ノ種類
 - 第一二九 公債證書賣買ノ額面金高
 - 第一三〇 銀行

- 第一三一 銀行ノ株主及株金
- 第一三二 銀行株金百圓ニ對スル純益
- 第一三三 銀行ノ預リ及貸付金
- 第一三四 銀行ノ爲換金
- 第一三五 内國郵便爲換
- 第一三六 銀行ノ諸手形
- 第一三七 質屋ノ貸金
- 第一三八 銀行及質屋ノ金利歩合
- 第一三九 地所ノ賣買及券面金高
- 第一四〇 地所ノ書質入貸借及券面金高
- 第一四一 建物ノ賣買及書質入

賃錢及物價

- 第一四二 市街職人及雇人ノ賃錢
- 第一四三 郡村職人及雇人ノ賃錢
- 第一四四 重ナル物品ノ相場
- 第一四五 日用品ノ平均相場

交通

- 第一四六 街道ノ里程
- 第一四七 汽車鐵道ノ里程及敷地
- 第一四八 汽車ノ乘客荷物及賃錢
- 第一四九 諸車
- 第一五〇 郵便
- 第一五一 通運會社
- 第一五二 電信

- 第一五三 港灣ノ景狀
- 第一五四 河川ノ舟路
- 第一五五 通船ノ堀川
- 第一五六 船舶
- 第一五七 船舶ノ所有者及船數
- 第一五八 難破船

貯蓄

- 第一五九 備荒貯蓄物
- 第一六〇 備荒貯蓄ノ場所及所管
- 第一六一 備荒貯蓄金ノ貸助ヲ受ケン人員
- 第一六二 備荒貯蓄金ノ出入
- 第一六三 町村ノ貯蓄物

第一六四 貯金

慈善及褒賞

- 第一六五 救濟所
- 第一六六 救濟所ノ現在人員
- 第一六七 救濟ノ費金
- 第一六八 國費救恤ノ人員
- 第一六九 國費救恤ノ米高及代金
- 第一七〇 慈善ノ義捐金及義捐人員
- 第一七一 義捐金ニテ救濟セラレシ人員及金員
- 第一七二 受賞者ノ成績
- 第一七三 受賞品ノ種類

衛生

- 第一七四 醫師產婆及鍼灸
- 第一七五 病院ノ患者
- 第一七六 黴毒受檢人員
- 第一七七 公私立病院患者ノ病類
- 第一七八 公私立病院患者ノ男女
- 第一七九 傳染病及地方病ノ患者
- 第一八〇 種痘人員
- 第一八一 病死者ノ病類
- 第一八二 病死者ノ年齡
- 第一八三 傳染病及地方病ノ病死者
- 第一八四 中毒患者及中毒患者ノ死亡
- 第一八五 藥舖及賣藥

社寺

- 第一八六 神社
- 第一八七 寺院
- 第一八八 神官及住職

教育及圖書新聞紙

- 第一八九 就學ノ學齡及非學齡人員
- 第一九〇 就學人ノ年齡
- 第一九一 小學校及教授者生徒
- 第一九二 小學教授者ノ類別
- 第一九三 公立小學教授者ノ年齡及勤務年限
- 第一九四 小學ノ卒業生徒

- 第一九五 小學ノ中途退學生徒
 - 第一九六 諸學校
 - 第一九七 諸學校ノ教授者生徒
 - 第一九八 公立小學費ノ收入
 - 第一九九 公立小學費ノ支出
 - 第二〇〇 諸學校費ノ收入支出
 - 第二〇一 出版圖書
 - 第二〇二 新聞及雜誌發行高
- 警察
- 第二〇三 警察署及警察官
 - 第二〇四 盜難ニ罹リシ家屋船舶及人員
 - 第二〇五 盜難ニ罹リシ財産ノ價額

- 第二〇六 變死人員
- 第二〇七 變死人員ノ署別
- 第二〇八 變死セントシテ死ニ至ラザリシ人員
- 第二〇九 變死セントシテ死ニ至ラザリシ人員ノ署別
- 第二一〇 途上ニテ保護セラレシ人員
- 第二一一 火災ニ罹リシ家
- 第二一二 火災ノ原由
- 第二一三 火防組
- 第二一四 水災
- 第二一五 捕ニ就キシ犯罪人員
- 第二一六 賭博犯處斷人員
- 第二一七 逆警罪處斷人員
- 第二一八 附加刑監視人員

- 第二一九 特別監視人員
- 第二二〇 新聞紙及雜誌ノ停止
- 第二二一 政談演說
- 第二二二 民有銃砲
- 第二二三 銃砲彈藥ノ賣買及舊銃製造
- 第二二四 取締ニ關スル諸營業
- 第二二五 貸座敷
- 第二二六 娼妓

監獄

- 第二二七 監獄官
- 第二二八 監獄ノ敷地及建物
- 第二二九 在監人員

- 第二三〇 監獄ノ出入人員
- 第二三一 在監人ノ死亡
- 第二三二 在監ノ延人員及極數
- 第二三三 在監人ノ賞
- 第二三四 在監人ノ罰
- 第二三五 監獄ノ經費

縣會及町村會

- 第二三六 縣會ノ議員及撰被撰舉權ヲ有スル人員
- 第二三七 縣會ノ常置委員
- 第二三八 縣會ノ開會日數及議事件數
- 第二三九 縣會議員ノ投票
- 第二四〇 町村會開未開會ノ町村及議員

縣廳及町村歲入出

- 第二四一 國庫支出ノ縣費
- 第二四二 地方稅收入ノ豫算
- 第二四三 地方稅收入ノ決算
- 第二四四 地方稅收入ノ郡別
- 第二四五 營業雜種及特別課稅
- 第二四六 地方稅ノ稅率
- 第二四七 地方稅支出ノ豫算
- 第二四八 地方稅支出ノ決算
- 第二四九 地方稅支出決算ノ細目
- 第二五〇 賦金ノ收入
- 第二五一 賦金ノ支出

- 第二五二 町村費ノ收入
- 第二五三 町村費收入ノ郡別
- 第二五四 町村費ノ支出
- 第二五五 町村費支出ノ郡別
- 第二五六 水利土工會決議ノ收入
- 第二五七 水利土工會決議ノ支出

國稅

- 第二五八 國稅
- 第二五九 國稅ノ郡別
- 第二六〇 地租ノ類別
- 第二六一 酒稅ノ類別
- 第二六二 國稅總納ノ人員

種々ノ規則

第二六三 國稅總納ノ金員

官吏及文書

第二六四 縣廳各課ノ分科

第二六五 縣官ノ分課

第二六六 縣官ノ現員及任罷

第二六七 郡町村吏

第二六八 勸業衛生學務ニ關スル人員

第二六九 縣官ノ俸金

第二七〇 郡町村吏ノ俸金

第二七一 勸業衛生學務ニ關スル人員ノ俸金

第二七二 收受ノ文書

第二七三 送發ノ文書

土地

第一 地勢

本表ハ地形、山脈、水脈、地質、地質、境界等數字ヲ以テ表シ難キ事實ノミヲ記載スヘシ

第二 本縣管轄地ノ沿革

國	郡	何國	某國	某國	某郡ノ内
自十六年 至十七年	十五年				
自十九年 至二十年	八年				
自五十七年 至五十八年	四年				
自三十七年 至三十八年	三年				
自元年	元年				
		何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
		某縣	某縣	某縣	某縣
		何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
		何縣	何縣	何縣	何縣
		何月何日	何月何日	何月何日	何月何日
		何縣	何縣	何縣	何縣
		某寺	某藩	某藩	某藩

表中何月何日某縣トアルハ府藩縣ヲ置カシタル月日ヲ云「某郡ノ内トアルモノハ一郡ヲ二分或ハ三分シテ管轄セシ地ノ沿革ヲ示サンカ爲ニ其式ヲ設ルモノナリ管轄ニ沿革ナキ年ハ表中第二欄及第四欄ノ式ニ倣フヘシ

第三 本縣ノ位置

在	地	極	所	經	緯	何年
地名	經緯度	方位	地名	經度	緯度	綱
某國某郡某町	東經 西緯	東				
		西				
		南				
		北				

經度ハ東京皇城舊本丸内天守臺ヲ基礎トシテ起ルモノヲ用ユヘシ其基礎ノ地名ハ表尾ニ記スヘシ
但暫ク東京赤坂度町舊氣象臺ヨリ起ルモノヲ用ユルモ妨ナシ

第四 國郡ノ面積及廣袤

國郡	面積	方位		地名	里程	方位		地名	里程
		極東	極西			極南	極北		
全管郡	方里分里	極東	極西	其郡其町村 其郡其町村	里	極南	極北	其郡其町村 其郡其町村	里

本表ノ面積ハ地籍ノ段別チ方里ニ改算シテ記入スヘシ本縣未ク其編纂ノ業ヲ全クセサルニ依リ姑ク之ヲ欠クモ可ナリ尤モ他ニ據ルヘキモノアラハ其數ヲ調査シテ記入スヘシ
但屬島ノ面積ハ之ヲ除キ池沼湖河川等陸地ニ包マンタル部分ハ算入スヘシ
廣袤ノ方位ハ正東西北ニアラサルモ東西南北ノ單稱ヲ用ヒ東南或ハ東北等ノ稱ヲ用ニルチ要セス里程ハ在廳地ヲ中興トシ最長最淵ヲ掲クヘシ

第五 地目別ノ面積

何月何日現在

地目	官有	民有	合計	何年	何年	何年	何年
畑田							
宅地							
林地							
合計							

本表地目ノ別ハ田畑宅地森林山岳原野社寺地道路堤防河川溝渠池沼湖、雜ノ十一種ニ分之ヲ記入スヘシ

第六		有無稅地及耕不耕地ノ面積		何月何日現在	
郡名	有稅	無稅	合計	耕地	不耕地
再掲 某市街 某市街 其他	町反	町反	町反	町反	町反
全管合計					
同何年					
同何年					
同何年					

有稅地ハ民有地第一種ヲ掲ク無稅地ハ官有地及民有地第二種ヲ掲ク可シ耕地ハ熟田畑ヲ云不耕地ハ未ク熟田畑ニ至ラサル土地及宅地山林原野秣場池沼湖等ヲ云

第七		山嶽ノ景狀		何年	
名稱	所屬地名	海面ヨリノ高サ	登山口ノ地名	山頂ヘノ里程	里町
某某山 某某山 某某山 某某山 某某山 某某山		尺			

山嶽ハ著大ナル者ヲ掲クヘシ名稱欄内ニ子嶽ハ母嶽ヨリモ一字ヲ抵下シ以テ母山ノ別名ニシテ又連嶽ナキ孤山ハ他ノ母山ト其文字ヲ齋願ニ記載スヘシ
表中登山口地名トハ管内ニ於テ一ノ重ナル登山口ノ町村名ヲ掲クヘシ山頂ヘノ里程ハ其登山口ノ町村ヨリ山頂ニ至ル里程ヲ掲クルノ意ナリ

種々ノ規則

第一〇 池沼湖ノ周圍及面積 何年測

名稱	所属地名	周圍面積	廣	袤
		里	町	町

池沼湖ハ凡反別十町歩以上ノ者ヲ掲載スヘシ地方ニ依リ溜井堀等ト稱シ池沼湖ノ稱ヲ用ヒサルモノト雖モ其實池沼湖ノ名ヲ下ス可キモノハ其俗稱ノ何タルニ拘ラス掲載スヘシ

第一 嶋嶼ノ位置及周圍面積 何年測

名稱	所属地名	位置		周圍面積	最近陸地へノ距離
		測點地名	經緯度		
			度分	町	町

嶋嶼ハ住民アル者ヲ掲載スヘシ但住民ナキモノハ其名稱ノ下ニ括弧ヲ置キ無人ト記入スヘシ測點地名ハ若シ小島ニシテ別ニ地名ナキ者ハ南端或ハ北端等ノ文字ヲ記入スヘシ

種々ノ規則

第一四 裁判區畫

裁判所名	所管郡名	町數	村數	戶數	人口	面積	一方里ノ人口
某地警察署 本廳直轄							
某治安裁判所							
某治安裁判所							

村數以上ハ十二月三十一日現在
戶數人口ハ一月一日現在
面積何年測

本表裁判所ハ縣ヲ管スル始審輕罪治安ノ各裁判所ヲ掲クヘシ裁判廳ノ管外又ハ管
内ニアルモ其區畫ノ隣府縣ニ跨カルモノハ其旨ヲ表尾ニ附記スヘシ
但表中所管郡名及町村ノ數等ハ管内ノ數ノミヲ掲クヘシ
裁判所ノ内島嶼ヲ管スルモノハ其名稱ヲ表尾ニ附記スヘシ

第一五 警察區畫

署名	所轄郡名	町數	村數	戶數	人口	面積	一方里ノ人口
某地警察署 直轄							
某々分署							
某々分署							

村數以上ハ十二月三十一日現在
戶數人口ハ一月一日現在
面積何年測

警察署ノ内島嶼ヲ管スルモノハ其名稱ヲ表尾ニ附記スヘシ

第六 元標ヨリ各所へノ里程		何年調	
東京及隣府縣	里町	所管裁判所	里町
所轄本館莖及分營		郡役所ノ二	里町
		警察署	
郡役所ノ一		電信局	

元標所在ノ地名ハ表尾ニ附記スヘシ「裁判所ハ其府縣ヲ管スル所ノ控訴始審治安ノ各裁判所ヲ掲クヘシ」電信局ハ其管内ニ在ル者ノミヲ掲クヘシ

第七 田畑ノ段別及地價		十二月三十一日現在	
郡名	田	畑	
段別	町段	町段	
地價	圓	圓	
一段平均地價	錢	錢	
何年			
何年			
何年			
合計			

戸口及人口

第二〇 郡ノ戸數及建物		一月一日現在	
郡名	戸數	總數	建物
	平均一戸ノ人口		
再某市街			
某市街			
其他			
全管合計			
同何年			
同何年			
同何年			
同何年			

戸數ハ明治十六年内務省乙第四拾三號達ヲ以テ調査セル現在ノ電數ヲ記載スヘシ
 以下ニ表同シ「建物」ハ明治十五年太政官第二拾六號布達徵發事務條例ニ依テ調査
 セル數ヲ記入スヘシ

種々ノ規則

第二 島嶼ノ戸數		一月一日現在	
島名	戸數	平均一戸ノ人口	人員
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		
	何年		

表中戸數ハ現在ノ電數ヲ掲クヘシ以下ニ表モ亦之ニ同シ郡役所ノ内島嶼ヲ管スル
 モノハ其名稱ヲ表尾ニ附記スヘシ

第三八 農業者				郡名	何年合計	何年	何年	何年	何年
農業者		兼業者							
總數	專業	兼業	兼業	總數	自作及小作人	自作	小作	總數	總數
	男	女	男	女					

五百六

一月一日現在

第三九 耕地ノ作付及不作付段別				郡名	何年合計	何年	何年	何年	何年
作付		不作付							
總數	畑付	總數	畑付	總數	總數	總數	總數	總數	總數

種々ノ規則

五百七

何年	何年	何年	何年	合計	郡名	第四一 米ノ收穫高及植付段別			
						收穫段別	陸稻	陸稻	陸稻

何年	何年	何年	何年	合計	郡名	第四〇 自作及小作地ノ段別			
						自作田	自作畑	小作田	小作畑

某郡	第四一 米ノ播種及收穫時期	
	時期	播種
	早	播種
	中	播種
	晚	播種
	早	收穫
	中	收穫
	晚	收穫
	早	插秧
	中	插秧
	晚	插秧
	早	收穫
	中	收穫
	晚	收穫

第四三 米ノ被害反別

何年	何年	何年	何年	合計	郡名	被害反別										
						總數	水	旱	風	雹	虫	其他				

第四四 大麥小麥裸麥ノ收穫高及播種反別				
郡名	大麥	小麥	裸麥	合計
何年	收穫反別	收穫反別	收穫反別	何年
何年				何年
何年				何年
何年				何年
合計				合計

第四五 粟、黍、稗ノ收穫高及播種反別				
郡名	粟	黍	稗	合計
何年	收穫反別	收穫反別	收穫反別	何年
何年				何年
何年				何年
何年				何年
合計				合計

第四六 蕎麥、蜀黍、大豆ノ收穫高及播種段別														
何年	何年	何年	何年	合計	那	蕎麥			蜀黍			大豆		
						收	種	段	收	種	段	收	種	段

第四七 小豆、蠶豆、豌豆ノ收穫高及播種段別														
何年	何年	何年	何年	合計	那	小豆			蠶豆			豌豆		
						收	種	段	收	種	段	收	種	段

第四八 藍、菜種、蒔ノ收穫高及播種段別				
郡名	收穫段別	菜種	收穫段別	蒔
何年	何年	何年	何年	合計

第四九 甘蔗、藍果、烟草ノ收穫高及播種段別				
郡名	收穫段別	甘蔗	藍果	烟草
何年	何年	何年	何年	合計

第五〇				甘藷、馬鈴薯、蘿蔔ノ收穫高及播種段別	
郡名	甘藷	馬鈴薯	蘿蔔	合計	何年
	收穫段別	收穫段別	收穫段別		何年
					何年
					何年
					何年
					合計

第五一				綿、大麻、苧麻ノ收穫高及播種段別	
郡名	綿	大麻	苧麻	合計	何年
	收穫段別	收穫段別	收穫段別		何年
					何年
					何年
					何年
					合計

